令和２年度活動実績報告書

長岡崇徳大学

目　次

○はじめに

１）教務委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２）入試委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
３）学生委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
４）広報委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
５）キャリア支援委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
６）学術委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
７）ＦＤ委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
８）研究倫理委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
９）地域貢献委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
10）大学連携委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
11）国際交流委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
12）実習委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
13）国家試験対策委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
14）保健衛生委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
15）継灯式委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
16）図書館運営委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
17）アドバイザーⅠ期生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
18）アドバイザーⅡ期生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
19）ボランティア活動委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
20）災害看護委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

はじめに

長岡崇徳大学は、「生命の尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観の涵養を図るとともに、専門的知識・技術を修得させ、科学的根拠に基づいた判断力と問題解決能力を養い、多職種と連携・協働して地域社会における保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護専門職者を育成する」ことを教育目的とし、地域密着型大学を目指すこととしている。

本学が養成する人材像として、以下の５つを掲げている。

・豊かな人間性と高い倫理観をもつ人
・看護実践力のある人
・連携・協働できる人
・探求力のある人
・地域的・国際的視野のある人

これらの人材育成を図るため、教育課程に基づいて、大学運営を軌道に乗せることが第一義的である。次に、必要な運営組織を編成し、円滑な運営ができる仕組みを構築する。また、地域貢献に積極的に関わることとし、関係諸機関と連携しながら大学の周知を図っていく。

このことから、看護学部の単年度目標として以下の３つを設定している。

・学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。
・看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。
・研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。

本学は平成 31 年度に開学し、令和４年度までは新設大学学年進行中であり、完成年度以降は令和７年度を目途に評価機関の評価を受審する予定である。上記の３つの年度目標については基本的に完成年度まで継続して取り組んでいくこととしている。また、既に令和２年度が過ぎたが、進行する年度によって、向かう教育課程の内容による重点項目も異なり、時代の変化と共に教育の様子も変わっていくと予想される。いずれの場合でも教育目的、養成する人材像の本質を見失うことなく、ＰＤＣＡサイクル（Ｐ＝Plan 計画を立てる、Ｄ＝Do 実行する、Ｃ＝Check 評価する、Ａ＝Action 改善する）を取り入れながら、令和３年度も本学の目指す教育研究の推進を図ることとする。

本活動報告書は上述のＰＤＣＡサイクルを一覧表にまとめたものである。

長岡崇徳大学　看護学部看護学科　教授会専門委員会　ＰＤＣＡサイクルシート

※委員会名：順不同

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会(卒業研究)	1.　教務に関する適切な所掌事項の運用を行う。 2.　履修指導を行う。 3.　入学前教育を実施する。 4.　リテラシーセミナーについて再検討する。 5.　卒業研究の準備を行う。	１について １）シラバス作成にあたり、授業の到達目標や評価基準等が明確に記載されるよう「シラバス記載時のポイント」を見直し、教員に周知していく。	１について １）シラバス作成 シラバスガイドラインを見直し、記載のポイントを追加・修正した。2021 年度のシラバス作成にあたり、科目担当者に修正したシラバス記載時のポイントを添えて依頼した。各科目担当者から提出されたシラバスを授業の到達目標、評価、予習・復習を中心に点検し、不備のあったシラバスについては修正を依頼した。	B	2021 年度用シラバス記載のポイント	1. １）シラバス 学内の教員には授業の到達目標、評価、予習・復習等の記載の仕方が周知されてきているが、非常勤講師については、記載に不備なものもあったため評価を「B」とした。次年度も今年度と同様に科目担当者にシラバス記載時のポイントを添えて依頼する。また次年度は非常勤講師に依頼する際、記載時のポイントを添えて依頼するだけでなく、さらなる工夫が必要である。	1　教務に関する適切な所掌事項の運用を行う。	１について ①シラバス作成にあたり、「シラバス記載時のポイント」を添えて依頼する。非常勤講師についても到達目標や評価、予習・復習等が明確に記載されるように依頼していく。 ②3 月上旬までに時間割を作成する。 ③定期試験および再・追試験を円滑に実施する。 ④教務システムが円滑に運用されるようにする。 ⑤便覧を作成し、新カリキュラムの新入生に修学ガイダンスを行う。 ⑥その他「新たな事項」に対し、適宜対応する。
		２）３月上旬までに時間割を作成する。	２）時間割作成 2021 年度の時間割を 2 月の教授会までに作成した。再履修になった科目(必修科目)を次の年度（1 年次前・後期、2 年次前期）でとれるよう時間割の調整を行った。学内の教員には 2 月の教授会で提示し、変更希望を受け付けた。	A	2021 年度前・後期時間割表	２）時間割作成 非常勤講師の決定や必修科目の単位が取れなかった学生への配慮等で時間割の作成が 3 月までかかったが、3 月半ばには教員に提示することができたため評価を「A」とした。今後も 2 年次の前期科目まで再履修となった科目については、必修科目に限って調整するよう努めていく。次年度も今年度と同様に 2 月の教授会に時間割案を提示できるよう作成する。	2　履修指導を行う。 3　入学前教育を実施する。	2　履修指導を行い、学生がスムーズに履修登録および履修計画が立てられるようにする。 3　2022 年度入学生に対し、入学前教育を実施する。
		３）定期試験および再・追試験を円滑に実施する。	３）定期試験・成績 非常勤講師のオムニバスの科目の試験の評価方法について検討した。 前期試験は 2 年生の定期試験の結果の掲示が遅くなったため、後期試験から学内教員の試験結果の掲示方法を変更した。また、試験科目が過密にならないよう土・日曜日をはさむなど試験日程を見直した。	B	オムニバスの評価方法 試験に関する確認事項	３）定期試験・成績 前期・後期とも支障なく定期試験を実施した。前期において 2 年生の定期試験の結果の掲示が遅くなったため評価を「B」としたが、後期試験は試験結果の掲示方法を修正して実施しており、次年度もできるだけ学生の視点に立ったスケジュールで試験を実施していく必要がある。	4　卒業研究のゼミの振り分けを行う。 5　特別講座を行う。	4　2 月下旬までに卒業研究のゼミの振り分けを行い、卒業研究がスムーズにスタートできるよう準備する。 5　特別講座を行う。
		４）教務システムが円滑に運用されるようにする。	４）教務システム 前・後期にオリエンテーションを行い、活用の周知を図った。	A	前期･後期オリエンテーションスケジュール表	４）教務システム ５）便覧の作成 学生の教務システムの活用はスムーズに行われてきている。また昨年の		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会 (卒業研究)		5）便覧を作成し、新入生に修学ガイダンスを行う。	5）便覧の作成 2020年度の便覧を見直し､2021年度入学者用の学生便覧を作成して修学ガイダンスで活用した。	A		便覧をさらに見直し、2021年度版を作成することができたため評価は４）５）ともに「A」とした。次年度も今年度と同様に学生に教務システムの活用を促すとともに、2022年版に向けて便覧の見直しを行う。		
		6）その他「新たな事項」に対し、適宜対応する。	6）オンライン授業、新型コロナウイルス対策 新型コロナウイルスの感染対策として、4月末にZoomの講習会を開催し、5月11日から6月19日までZoomによるオンライン授業を実施した。また、オンライン授業が終了した時点で、学生と教員にアンケートを実施した。 対面での授業に向けて講義室の環境を整備し、学生と教員に授業・演習での感染対策を周知した。	B	Zoom説明会資料 オンライン授業アンケート 対面授業を行う上での注意点	6）オンライン授業、新型コロナウイルス対策 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて大きな支障はなく授業を進めることができたため評価を「B」とした。今後も感染状況等を確認しながら速やかな対応ができるようにしていく。		
			7）その他 選択科目の開講にあたっての人数(4人以上で開講)を決定した。 既修得単位認定願の書式、および「特別聴講学生」と「科目等履修生及び聴講生」について教員に周知し、「特別聴講生」「聴講生」に開講する科目について学内教員に確認した。	A		7）その他 その他、教務に関する「新たな事項」に対し、適宜対応したため評価は「A」とした。次年度も今年度と同様に「新たな事項」に対し、適宜対応する。		
		2. 履修指導を行い、学生がスムーズに履修登録および履修計画が立てられるようにする。	2．履修指導 1年生に対し、前期及び後期の初めに履修指導を行った。	B	前期および後期履修ガイド	2. 履修指導 前期・後期のオリエンテーションや履修ガイダンスは計画通り実施できたが、履修ガイダンスでは1年間の上限について等説明が不十分な点もあったため評価を「B」とした。次年度は履修ガイダンスの資料を見直し、学生が理解しやすいガイダンスを実施する。		
		3. 2021年度入学生に対し、入学前教育を実施する。	3．入学前教育 1月と3月に実施予定のガイダンスと確認テストは新型コロナウイルスの影響で学内での実施を中止し、郵送で実施した。	B	入学前教育案内文 2021年度入学前教育計画	3. 入学前教育 新型コロナウイルスの影響で学内でのガイダンスができなかったため評価は「B」とした。今後の課題としては、2年間の状況をふまえて教材やガイダンスの見直しを行うことである。		
		4. リテラシーセミナーの目的、方法を再検討する。	4．リテラシーセミナー リテラシーセミナーについて目的・	C	リテラシーセミナーについて	4. リテラシーセミナー 2019年度のリテラシーセミナーに		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会 (卒業研究)			内容の検討を行った。その結果、リテラシーセミナーは終了とし、学部長より昨年度参加回数が多かった学生の表彰をしてもらった。今後は「特別講座」として内容を検討していくこととした。			ついて内容を検討し、リテラシーセミナーの終了を学生にも周知して次の活動へとつなげたことは評価できると思うが、新型コロナウイルス対策で今年度は新たな「特別講座」を開催することができなかったため評価は「C」とした。次年度は感染状況も見ながら「特別講座」を実施していく。		
		5.　卒業研究の指導方法､評価等を検討し、シラバスを作成する。	５．卒業研究 卒業研究スケジュールを作成した。卒業研究の流れに沿ってゼミの希望調査票、倫理チェック、依頼文、同意書、論文作成規定、論文記入例等を作成した。	A	卒業研究スケジュール 卒論資料一式（フォルダー）	5．卒業研究 卒業研究について一通りのスケジュールや資料を作成することができたため評価は「A」とした。次年度はゼミの振り分けがスムーズに行えるよう準備を進めていく。		
入試委員会	1　入学者選抜試験実施要領を選抜区分別、選抜方法別に充実させ、教職員に周知する 2.　円滑で遺漏ない入学者選抜試験を実施する 3.　入学者選抜試験内容を振り返り、次年度の学生募集計画を年度内に立案する	1-1）各選抜区分別に実施要領を作成し、実施手順を明瞭にする	1-1）選抜区分毎に、実施要領、監督要領及び面接要領を作成し、実施した。なお、試験終了後担当者から改善意見を聴取し、実施し易い要領改善に努めた。	A	･2021年度選抜試験実施要領(総合型Ⅰ・Ⅱ期、 学校推薦型及び新潟県特別選抜試験Ⅰ・Ⅱ 期、一般選抜試験Ⅰ・Ⅱ期) ・各選選抜試験実施後アンケート結果	1-1）実施要領、監督要領及び面接要領の作成 実施要領等の作成は７月から原案を作成し、今年度の変更点を踏まえて委員会で検討と確認作業を実施したこと、及び実施後のアンケートの意見を反映できたため評価を「A]とした。限られた担当者数によるタイムリーな作業には厳しいものがあるが、継続的な努力が求められる。	1　規定に基づき、入学者の選抜、大学入学共通テストの実施、についてとどこおりなく、実施できる	1　について 1）区分に合わせた入学者の選抜を行うための日程、人員を確保、偏りが少なく配置する。 2）長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要因を確保し、派遣する。 3）外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼
		1-2）面接及びプレゼンテーションを用いる選抜試験の実施要領（評価基準を含む）を作成し、公平な実施・評価ができるようにする	1-2)面接及びプレゼンテーション評価表について、評価項目や評価基準の表現を見直した。今年度加わった約５分間の１）プレゼンテーションに対して、従来の評価表の中にプレゼンテーションに対する評価項目について１、２ 月の入試委員会で検討した。従来は、AP の５項目のうちの「基礎学力」についての項目を除く４項目を利用して５項目に分けていたため、AP の４項目をもとに戻し、5 項目目に「プレゼンテーションを適切に行える」を加えて５項目 100 点満点とした。また、4 段階評価の評価基準の表現をより適切な表現に変更し、教授会で承認された。	B	・1，２月入試委員会議事録 ・3 月 12 日教授会資料（回収）	1-2)面接及びプレゼンテーション評価表 総合型選抜試験、学校推薦型選抜試験における面接とプレゼンテーションの方法は、新たな試みとして実施方法の吟味とその周知につとめ、混乱なく実施できた。しかし、評価方法については、評価者から改善をもとめる意見があったため「B]評価とした。次年度に向けた意見交換と改善が求められる。	２　２０２１ 年度の入試事業（2022 年度入学生対応）が公明･正大に遂行できる ３　２０２１年度の入試委員会の課題を整理し、２０２２年度の入試事業がよりよい状況で遂行できる	２　について 1）2021 年度の募集要項に示された内容をＯ．Ｃ等で告知する 2）募集要項で示された内容を遵守して試験と選考を行う ３　について　※本学の実情に合わせた改正のために以下を検討 1）入試区分と現在のＧＰＡとの関連 2）面接評価の検討（配点、筆記試験の妥当な比率など） 3）面接官の妥当な人数 4）面接点の分散のとらえ方 5）調書、評定、欠席、活動や資格等の取扱い 6）合格、不合格ラインの考え方と設定 7）特待生の基準について
		1-3）選抜試験日程ごとの担当者配置計画を事前に作成して実施する	1-3)選抜試験ごとの担当者の作成は事前に行い、入試オリエンテーションにて説明を行った。配置・役割計	A	･2021年度選抜試験実施要領(総合型Ⅰ・Ⅱ期、　学校推薦型及び新潟県特別選抜試験Ⅰ・Ⅱ期、一	1-3)選抜試験ごとの担当者の作成と入試前説明 ７ 月末に入試区分ごとの予測志願		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試委員会			画にそって円滑に実施された。		般選抜試験Ⅰ・Ⅱ期）	者数に合わせた担当者数を予測し、入試日ごとに教員への周知を行い、各担当者の協力が得られたため「A]評価とした。体調や事故による急な担当者の変更はなかったが、入試区分により予測と異なる志願者数となったため、志願者数確定後の１週間前に追加または出勤中止の知らせをすることになった。このことは、今後も生じる可能性があるため、「A]評価のままとした。		
		1-4）広報委員会と協同して学生募集活動に参画し、志願者数増加につながる募集要項を検討する	1-4）英語を選択科目としたこと、大学入学共通テストの面接を廃止したこと及び一般選抜と大学入学共通テスト選抜を併願した場合、検定料を15,000円割り引く措置を行い志願者が 2.4 倍（49 人から 117 人）に増加した。 増加は新型コロナの影響で、受験生の県内志向が高まった後押しも考えられる。入試方法の変更は、文科省が２年前予告の方針を示していることから、高等学校学習指導要領の改訂時期や志願者の推移を見ながら継続して検討する。	A	・大学案内 ・学生募集要項 ・選抜試験状況（教授会資料）	1-4）志願者数 総合型及び一般選抜入試区分で志願者数の増加があったことから「A]評価とした。総合型については、新たにプレゼンテーションを加えたことによる減少はみられず微増となった。一般選抜試験区分については、英語を選択科目としたこと、大学入学共通テストの面接を廃止したこと及び一般選抜と大学入学共通テスト選抜を併願した場合、検定料を15,000円割り引く措置を行い志願者が 2.4 倍（49 人から 117 人）に増加した。しかし、専願の学校推薦区分の志願者数は 35 人枠を満たすことがなかったため、安定した定員確保に向けて、広報委員会等と協同してさらに知名度や信頼度を上げる努力が求められる。		
		1-5）選抜試験の変更内容について web 広報資料を作成する	1-5） コロナ禍の状況で高校の休校措置が一般的になり、高校訪問やオープンキャンパスでの説明が困難になったため、5 月に入ってから大学のホームページに動画資料を掲載した。募集要項のカラースライドに音楽やアニメーションを加えて、親しみやすい情報提供を試みた。	B	・大学ホームページ入試情報欄	1-5）選抜試験の変更内容の周知 動画による入試説明となったがが、昨今の高校生の情報収集がインターネットや動画利用であることをアンケートやアクセス数などで確認できたため「B]評価とした。今後は、さらに県外を含めた周知を広め、その結果志願者数増加となるような工夫が求められる。		
		2-1）実施要領にそった直前オリエンテーションを実施する	2-1）出願締め切り日と入試日が極端に短い入試を除き、入試の前日に担当者を対象としたオリエンテーションを実施、その２日前に要領を配付するよう努めた。	B	・2021 年度実施要領	2-1）実施要領にそった直前オリエンテーション 出願締切日と入試日が近いため、実施要領オリエンテーションが直前になっていることに対して、教員からの直前質問があったため「B]評価		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試委員会						とした。オリエンテーションに参加できない担当者に対して、個別説明などの対応がされているものの、今後の入試日程の改善検討が求められる。		
		2-2)　新型コロナ感染症対策ガイドラインにそった選抜試験を実施できるよう計画する	2-2) 新型コロナ感染拡大を防止するため、受験生間の間隔をあけること等ガイドラインに沿った入試を行った。	A	・2021 年度実施要領	2-2）新型コロナ感染拡大を防止 コロナ禍の入試を始めて実施するために、繰り返し会場の使い方や手順の見直しを行った結果、感染者を出さず、また辞退者を出さずに実施することができたため「A]評価とした。次年度に向け、さらに志願者増加した場合の実施計画を早期に検討を始める必要がある。		
		2-3)一般選抜試験問題作成依頼、事前点検、印刷を実施する	2-3)一般選抜試験の「英語」について新たな出題者に依頼した。国語、数学、生物に関しては従来の作成者にⅠ・Ⅱ期分を依頼し、４教科とも入試委員を中心に２名ずつで分担して点検項目にそって点検作業を行った。問題印刷については、入試・広報課と入試委員の代表者で行い、点検、封印をして準備した。英語Ⅱ期の問題文の番号ミスが受験生から指摘されたが、作問者の修正回答で対応し混乱はなかった。このミスは点検後の修正と印刷の間のファイルのやり取りの中で生じたと考えられ、印刷前の原紙の再点検を念入りに行う必要があった。次年度の改善事項である。	B	・一般選抜試験Ⅱ期、質問票と対応	2-3)一般選抜試験問題作成依頼、事前点検、印刷 マイナーな印刷ミスはあったものの、試験問題の事前点検体制の確立がなされ、出題者と入試委員の役割分担認識が整いつつあるため「B]評価とした。今後、さらに確実な事前点検の継続が求められる。		
		2-4) 選抜区分ごとのデータを整理し、入試判定会議（教授会）を実施する	2-4)選抜区分ごとのデータを「選抜状況」として一覧表にまとめ、拡大入試委員会や合否判定会議の資料とした。	A	・拡大入試委員会資料（１０～３月）	2-4）選抜区分ごとのデータを整理し、入試判定会議（教授会）を実施 入試判定会議資料の形式が整い、拡大入試委員会や入試判定会議が順調に実施されたため「A]評価とした。異なった視点から入試データを見直し、さらに必要十分な資料作成と入試判定会議となることが求められる。		
		2-5) 大学入学共通テストを活用し、分担者が試験監督等に参加する。	2-5) 1 月 16 日は 2 人の教員が、1 月 17 日は 3 人の教員が試験監督者として、また、両日とも 3 人の事務職員が入試担当者として長岡技術科学大	A	・大学共通テスト実施要領 ・長岡技術大学共通テスト実施要領	2-5) 大学入学共通テストの活用と試験獲得協力 本学の大学入学共通テスト利用者数は限られているものの、実施協力		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
			学試験場で業務を行った。			を継続により、本学の入試要項の整理と改善につながっていると考えられるため「A]評価とした。今後も活用方法や協力体制について継続的に検討を行っていく必要がある。		
		3-1）志願状況や入試結果を分析する。	3-1)志願状況や入試結果は選抜区分ごとに表にして分析した結果、学校推薦型での志願者は区分別人数には満たなかった。一方、総合型選抜は区分人数を超えて志願者が多かったため、次年度の総合型選抜枠を増やすよう募集要項を変更した。総合型区分募集人数を増やした５人分は、一般選抜枠を減じた。 一般選抜区分の受験者や大学共通テスト利用志願者は、それぞれ昨年の 1.2 倍、3.6 倍となった。全選抜による合格者の手続きは､総数で 86 人となっている。	A	・2022 年度学生募集要項	3-1）志願状況や入試結果の分析 志願者数は確実に増えたため「A]評価とした。半面、入試科目数減や評定平均値低下などの課題は、入学後の成績に大きな影響を及ぼしていると考えられるため、委員会を超えたデータの分析が求められる。		
		3-2）志願者数増加につながる次年度募集計画を年度内に立案する	3-2）次年度募集要項作成では、まだ入学者増が期待できる総合型選抜の募集人員を 5 人増やし、25 人とした。また､3 月に行っているⅢ期総合型選抜試験を、12 月実施の学校推薦型選抜試験と同日に変更した。募集要項の表現・表記についてもさらにわかりやすくなるように見直しをした。	B	・2022 年度学生募集要項	3-2）志願者数増加につながる次年度募集計画 志願状況や入学者数を注視しながら、1 月には入試区分別の入試日程を決定し、専願の学生が年内に受験しやすいような日程の見直しを行ったため「B]評価とした。この変更意図にそって新年度の実施結果を評価し、引き続き志願者増を目指す必要がある。		
学生委員会 (R3～保健衛生委員会､継灯式委員会､キャリア支援委員会を吸収)	1. 学生生活を支援する。 2. 学友会活動を支援する。 3. ３つの委員会（保健衛生委員会、継灯式委員会、キャリア支援委員会)との連携を図る。 4. 保護者会を円滑に行う。	1. について ①2019 年度に実施した学生交流会の意見･要望に対し、大学側が「次年度以降の取り組みになります」などと回答したものについての実施状況や進捗状況を確認し、対応する。	①「積み残し」については事務局長に確認し、回答は可能な限り要望に応じるように、また、学生が納得できるように､8 月 18 日に掲示およびポータルサイトにて回答した。しかし、できる限り学生が納得するように回答を工夫したが、施設・設備、大きな予算が伴うことに関しては応えることができないことも多かった。引き続き、回答内容に積み残しがあるか確認し、また、満足度調査で明らかになった学生の意見を加味し､「協議中」「今後検討する」「対応予定」と回答したものについては、	B	第１回学生交流会（2019 年６月 12 日）での意見・要望に対する回答（その２）	1. ①解決できない課題については、やや諦めているところもあった。苦情請負のような立ち位置になってしまったため「B」とした。今後は、教員だけでなく、案件によっては学生と一緒に行動しながら課題解決を図る姿勢が必要である。	1. 保健衛生について １）学生の健康管理を支援する。 ２）予防接種が確実に実施できるように支援する。	1. 保健衛生について １）-1 ５月：健康診断の結果の確認を徹底する。 １）-2 ６月～8 月：要精検者への受診勧奨と受診結果の確認をする。 １）-3 ５月：健康チェック用紙記入の指導をする。 １）-4 ５月：自己管理ファイルで自己管理の指導をする。 ２）-1 Ｂ型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン、新型コロナワクチンの予定の調整と把握を行う。 ２）-2 ５月：予防接種に関する説明をする。

看護学部・看護学科の目標

令和２年度	令和３年度
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）	1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会 (R3～保健衛生委員会､継灯式委員会､キャリア支援委員会を吸収)			事務局長に確認したうえで、具体的に活動ができるものは学生と一緒に改善に向かって行動する予定である。				３）健康管理に関する啓発活動を行う。	３）-1　保健だより発行と掲示を行う（3 回/年：前期１回・後期２回、他必要時）。 ３）-2　感染対策の指導をする（随時）。
		②学生からの投書に対し、できるだけ早く回答する。	②学生からの投書は､4 月 25 日 1 通、5 月 6 日 1 通、5 月 9 日 1 通、5 月 20 日 1 通、1 月 18 日（7 月回答）1 通、8 月 7 日 1 通、8 月 27 日 1 通、10 月 12 日 1 通の、計 8 通あった。投書内容に応じて他部門と協力しながら回答した。学生委員会の開催日までに長い期間を要するものはメール会議を開催し回答した。	B	投書の回答	②投書のあった日から学生委員会の開催日までに長い期間を要するものは、メール会議を開催して回答し、昨年度よりも短い期間で回答できたため「B」とした。今後も定例の学生委員会での審議ではなく、メール会議等を実施し、できるだけ早く回答することが求められる。	２．キャリア支援について １）学生のニーズに沿ったキャリア支援体制を整え、支援する。 ２）キャリア支援室の整備を行い、学生の利用促進を図る。	２．キャリア支援について １）-1　キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・公務員試験対策（3 月、4 月） ・インターンシップガイダンス（6 月） ・就職合同説明会（７月、8 月） ・実習マナー講座（1 月） ・就職・進学調査（8 月、2 月） ２）-1　キャリア支援室の移動整備（4 月～5 月）および整備を行う。 ２）-2　学生に対する広報活動を強化する（ポータルサイトの活用、掲示板、直接 PR)。
		③「学生生活満足度調査」を実施する。	③第 2 回学生委員会後、他学の満足度調査の文献検討を開始し、調査項目の検討を繰り返し、令和 2 年度学生満足度・学生生活実態調査用紙を作成した。 1 年生には 12 月 9 日､2 年生には 12 月 21 日に調査を実施した。全体配布数 96 人で回収率 100%、有効回答率 99.0%だった。「大学入学に関する満足度」、「支援体制に関する満足度」、「各施設･設備に関する満足度」､「学生生活に関する実態」、「学生自身に関すること」についてまとめ、報告した。	A	令和 2 年度学生満足度･学生生活実態調査結果まとめ	③調査項目の検討および調査の実施ができたため「A」とした。今後は、調査結果の分析および公表の方法を検討することが必要である。	３．継灯式について １）参加者の安全を考慮し､継灯式を行うことができる。	３．継灯式について １）-1　5 月 22 日（土）に継灯式を行う。 １）-2　学生全員が協力し合い、主体性をもてるよう支援する。 １）-3　課題を明確にし、次年度につなげる。
		④感染対策を徹底する。	④6 月 22 日の登校に向けて、学生委員会と保健衛生委員会､教務委員会、事務局と連携をして､講義室の配置、図書館、食事時の座席の確保、手指消毒の設置、清掃方法について対応した。登校後は、食事時間や講義の休憩時間に学生の様子を見ながら適宜声をかけて感染予防行動を促した。 ６月 22 日からの対面授業に向けて「対面授業を行う上での注意点」を 6 月 15 日にポータルサイトで掲示した。 9 月 30 日の後期オリエンテーション時に感染対策について学生委員会より再度注意することを促した。	B	対面授業を行う上での注意点	④学生の感染対策については保健衛生委員会と連携をして行い、環境を整えることができたので「B」とした。しかし、冬にはいると学生から積極的に換気をするなどの感染予防行動が少なくなり、徐々に慣れてきて消毒する様子も減ってきていた。啓発活動は適宜行ったが学生の行動変容が難しく、引き続き感染予防対策の徹底ができるような検討が課題である。	４．学友会について １）学友会活動を支援する。 ５．保護者会について １）保護者会を円滑に行う（アンケートの満足度 90%を目指す)。 ６．新入生イベントについて １）新入生同士の交流を図る。 ７．学生生活（学生交流会･満足度調査）について １）学生生活の支援と大学	４．学友会について １）-1　徳樹祭、サークル活動などの学友会活動を側面からバックアップする。 ５．保護者会について １）-1　10 月 9 日（土）に保護者会を実施する。 ６．新入生イベントについて １）-1　入学後早期に新入生イベントを実施する。 ７．学生生活（学生交流会・満足度調査）について １）-1　学生生活における改善課題に対し

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会 (R3～保健衛生委員会､継灯式委員会､キャリア支援委員会を吸収)		⑤冬期交通安全講習会を実施する。	⑤11 月 18 日に「冬期交通安全講習会」を企画したが、講師を務める長岡警察署の都合で延期となり、その後の日程調整ができないために中止となった。	D	冬期交通安全講習会ポスター	⑤長岡警察署のとの日程調整がつかず、中止としたため「D」とした。長岡警察署からの講習会は中止となったが、今年度は大雪であったために、転倒した人もいたので通学時の安全を守るための注意事項のポスターや文書等で注意喚起をすることが必要であったと考える。	生活の環境を整える。	て、大学側と学生との意見交換の場を設ける（話し合い、投書箱など)。 1）-2　改善課題に関して、進捗状況を学生に報告、対応する。 1）-3　学生生活満足度調査を実施し、結果の分析を行い、学生生活の充実に向けた改善の一助とする。
		⑥学生に関する「新たな事項」に対して、適宜対応する。	⑥学生に関する「新たな事項」として考えられるものに、講義室内でのスマートフォン等の充電がある。それについては、学生委員会および大学運営会議で審議し、積極的に注意しないことになった。	C	11 月 30 日メール会議結果 3 月 11 日教授会議事録	⑥学生委員会での合意が大学運営会議で再検討になり、結論が出て教授会で報告するまでに 3 か月間かかったため「C」とした。今後も学生に関する「新たな事項」に関しては、適宜対応していくことが必要である。	8. 冬期交通安全講習会について 1）冬期の交通を安全に行えるように支援する。	8. 冬期交通安全講習会について 1）-1　降雪前に冬季交通安全講習会を実施する。 1）-2　通学時の安全を守るための注意事項のポスター掲示、または注意喚起の文書を提示する。
		2. 徳樹祭、サークル活動などの学友会活動を側面からバックアップする。	2. 新型コロナウイルスの感染拡大・社会情勢から、学生は 4 月オリエンテーション後から 6 月 19 日まで登校できなかった。登校後も、新型コロナウイルスの関係で、徳樹祭、サークル活動は中止せざるを得なかった。学生と委員が集まって計画する機会が持てず、球技大会と新入生歓迎会が実現したのは 12 月 14 日であった。球技大会には教職員チームも参加し、計 7 チームで行われた。新入生歓迎会は 1 年生の多くが参加した。学友会役員選挙は、3 月 5 日に学生と話し合いを持ち、来年度実施の予定である。	C	第 5 回教授会 球技大会･新入生歓迎会ポスター 2020 年度学友会役員名簿	2. コロナ禍において、先の見通しが立たなかったために、十分な計画が立てられず、学生の主体的活動が引き出せなかったため「C」とした。来年度は学友会活動の年間スケジュールを学生と共有・計画し、学生が主体的に行動できるように支援していくことが必要である。	9. 投書について 1）-1　学生からの投書に対し、適宜対応する。	9. 投書について 1）-1　学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。
		3. 傘下にある３つの委員会との連携を密にし、委員会活動がスムーズに行われるようにする。	3. 保健衛生委員会、キャリア支援委員会、継灯式委員会の委員長に学生委員会のメンバーとして参加してもらい､各委員会からの報告を受けた。	B	定例学生委員会議事録	3. ３つの委員会からは、適宜学生委員会において報告を受けたので「B」とした。来年度からは傘下ではなく学生委員会の中に組み込まれたので、様々な検討を学生委員会の中でスピーディに行うことが求められる。		
		4. 10 月 3 日（土）に保護者会を実施する。	4. 昨年度のものを参考にして役割やスケジュールを作成し 10 月 3 日（土）に行った。出席数は 50 名（1 年生 34 名 2 年生 16 名）であった。個別面談は 12 名（1 年生 7 名、2 年生 5 名）であった。保護者へのアンケートでは「満足した：66.7%」「や	A	保護者会役割分担表 2020 年度保護者会アンケート結果	4. 新型コロナウイルス感染予防対策をして開催できたこと、保護者会の満足度が 97.6%であったことから「A」とした。保護者へのアンケートでは、各学年別でして欲しかったという意見があった。学年が増えれば当然のことであり､保護者会の進行･		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
			や満足した:31.0%」の合計は 97.6%であった（N=42）。個別面談希望者の誘導がうまくいかないところが一部あった。			内容の再検討が必要である。その他、個別面談希望者の誘導、会場までの案内（道順などの掲示）、開始までの時間の有効活用（大学の PR 動画を流すなど）などを検討していくことが求められる。		
広報委員会	１. OC 参加者年間 300 名を確保し、確保のため各高校が本学の特色を理解できるための方略を検討する ２．地域社会での大学の認知度を高める ３．高校教員説明会や高校訪問の昨年度の分析から大学の理解度を深める ４．大学案内の内容の充実を図る ５．魅力ある企画を検討し導入・実施する	1. OC の開催：10 回 ⑴. 広告活動：はがき・ちらし・ＴＶ・新聞・HP・SNS、高校訪問で行なう ⑵. OC 開催の大学のキャンパスのデザインの改善 ⑶. OC の内容の改善：ビデオの活用・学生参加の活動の企画・模擬事業の改善（演習を中心に行う） ⑷. 魅力あるデモストレーションへの改善 ⑸. OC 応援団として参加者の 2 年生の固定化を図る ⑹. HP のリニューアル ＊Web　OC 用動画の作成を行う ＊高校のニーズに応じた看護体験の実施	1. OC について： OC 参加者は 19 年度 8 回開催で 221 名､20 年度は 5 回開催で 258 名であった。また､OC 以外にも臨時で看護体験を開催した。これはコロナ禍で病院での看護体験ができないため、大学で看護体験ができないかとの相談を受け､急遽実施するにいたった。これは、課題のレポートを提出し、ケアを考える看護体験とした。これは 2 校 2 回参加で 19 名の参加者であった。	B		1. ＯＣの企画案について改善がなされてきたが、ＯＣ参加者 300 名は達成できなかった。HP 上のアクセス数は拡大していたが、OC 参加にはつながらなかった。今後、集客力を高めるためには、魅力ある OC の企画が必要である。しかし、気を付けないといけないのは、ＯＣの形式が整えられてくるとマンネリ化する可能性もあり。また複数回参加する高校生から飽きられないためには、各 OC の特徴を出す工夫が必要である。各回のＯＣの特徴を出すことと年度ごとに新しい企画を取り入れていく必要がある。	１．ターゲット（高校生、保護者、高校教員、地域）と目的に応じた広報媒体（方法）・内容を検討し、効果的な広報活動を展開する。 ２. 大学で看護を学ぶことの魅力を積極的に発信し、特に中越地区からの出願者、および指定校・公募推薦選抜による出願者を増加させる。 ３．教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。	1 について ①OC の開催（年間 9 回） ②次年度大学案内の業者選定と作成作業（8 月業者決定、10 月～写真撮影） ③ホームページの管理運営（通年） ④動画作成（3 本）と公開（5 月～） ⑤DM、高校ラックチラシ、FAX、バス放送等による広告（適宜） ⑥SNS の利用状況の確認と活用（適宜） ⑦各種データ分析とエデュースとの Web 会議による広報戦略の検討（毎月） ２について ①高校訪問（5 月～、年間 3 クール） ②高校教員説明会（6 月） ③看護の学び体験の実施(7 月～8 月､3 回) ④高校出前授業（随時） ⑤大学ガイダンス（通年随時） ⑥指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙（7 月） ３について ①ホームページの管理運営（随時） 特に教育実践報告、研究活動の紹介、地域貢献・地域連携の活動報告を積極的に掲載する
		2. マスメディアの利用による認知度を高める： ⑴路線バスでの車内放送 ⑵新聞への広告掲載 ⑶宣伝活動：2020 年は前年度より拡大	2. Ｗｅｂによる広報及びＴＶやバス車内放送による宣伝： Web による広報の改善により漸次資料請求数が増加した｡TV での広告も 1 チャンネルのみで 15 秒であったが放映できた。路線バスでの車内放送が、市内の高校を循環するバス路線及び新潟市内の 1 路線でなされた。放送内容は「長岡崇徳大学は、新潟県中越地区初の看護大学で、地域をつなぐ看護力を育みます」である。	B		2. TV コマーシャルは、TV を高校生は見ないことが多く、直接的な影響を得るのは難しいが、家族や親類等への認知度を高めるには重要な手段である。路線バス車内放送は、繰り返し聞くことにより、地域に看護大学あるという認知を定着させる。車内放送の文言について実際車内で聞くと、放送が途中で切れることもあり、最初と最後に長岡崇徳大と入れる必要がある。		
		3. 高校教員への大学説明会・高校訪問 ⑴高校訪問 3 クール ⑵高校訪問専任の教員の育成、オリエンテーションの開催 ⑶高校教員説明会の学生プレゼンの動画作成 ⑷高校訪問及び教員説明会終了後の分析を行う	3. 高校教員への大学説明会・高校訪問： 高校教員への大学説明会は、年 1 回 5 月に行われるが、20 年度はコロナ禍で 6 月に延期となったが対面で感染予防を十分にして開催された。参加者は表 4 に示したように 20 年度は 19 年度と比較し漸次増加が見られた。 高校訪問は、20 年度はコロナ禍で高	B		３．高校訪問は、大学の説明をするだけではなく、高校の先生の大学への認識や進路指導でのニーズを把握できるチャンスでもある。ニーズを把握し、柔軟に対応しニーズに応えていくことが大学への信頼を築く一助にもなる 高校訪問した結果を委員会で共有し、高校個別の対応査悪も検討していく必要がある。		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
広報委員会			校への立ち入り禁止となり、また私立高校の１部では引き続き入校禁止が続いているところもある。6 月、9 月、11 月で３回、状況をみながら実施した。					
		4.　大学案内・ポスター ⑴5 月末までに完成 ⑵内容の精度を高めるためのチェックを複数回行う ⑶大学のポスター・ちらし：6 月末までに完成	４．大学案内・ポスター： 19 年度の大学案内の図柄は、看護大学か一目でわかるものでなかったため、２０年度は看護大学らしい図柄とした。大学案内・ポスターも 19 年度より多く印刷し、配布された。	B		４．大学案内の内容充実のために、委員や学生からアンケートを取り、その意見を生かし企画した。学生の意見は大事であり、今後も継続して行っていく必要がある。外部の病院施設の方のコメントも掲載したが、こちらの意図が十分伝わっていなかった。今後主旨を理解いただき、魅力ある内容にしていく。 大学案内は充実した内容になってきているので、毎年適切な評価により､改善につなげていく必要がある。		
		5. ⑴専門業者の選定：4 月~5 月の期間に選定 ⑵高校への卒業生からの手紙の送付	5. 直接的には看護体験の企画･実施、間接的には令和２年新潟県高大連携促進事業で大学が申請した２つの事業が採択され、高校生や高校教諭への働きかけができた。	B		５．　コロナで在校生（１年生）との接触がかなわず、高校へのメッセージの送付がかなわなかった。それもあるが、当大学に入学したことを誇りに思わず在校生等にしられたくないとの思いの学生もいることがわかり、一律に行事を進めることの難しさを思う。		
キャリア支援委員会	1.　学生にキャリア支援に関する動機付けができる。 2.　キャリア支援室の整備を行い、学生が利用しやすい体制を作る。	１．長岡看護福祉専門学校の就職情報の入手を行う。	１．長岡看護福祉専門学校２０２０年３月卒業生就職先情報入手（非公開）	A	１．会議資料	１．2018 年、2019 年の長岡看護福祉専門学校の情報は入手出来ているが、今後どのように活用していくかが課題。	（学生委員会と合併）	
		２．インターンシップ情報、就職・進学先情報を適時公開し、掲示板に掲示する。	２．インターンシップ情報、就職・進学先情報公開、展示	B	２．キャリア支援室ファイル･掲示板	２．キャリア支援室における整備、情報の展示、公開、実習におけるマナー講座の研修会を行ったが、学生からのアンケート結果では、キャリア支援室としての存在そのものの周知度が低いことがわかった。目標とするキャリア支援に関する学生への		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度								令和３年度
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）								1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。
年度当初記載			年度末記載					年度当初記載
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
キャリア支援委員会						動機づけと利用しやすいキャリア支援室の観点から、学生に対してどのように情報を発信し、利用してもらうかが課題。			
		３．ガイダンスの実施（7 月：インターンシップについて、12 月：実習、就職マナーガイダンス､3 月:公務員試験ガイダンス)。	３．インターンシップガイダンスに関しては、コロナ感染禍の中で実施できず、インターンシップに関する情報とインターンシップへのマナーに関するパンフレットを作成し、配置した。2 年生に対して、基礎看護学実習Ⅱの前に､｢実習時におけるマナー研修｣をオンラインで実施（12 月 3 日）し、参加者は 37 名であった。アンケートでは、参加者のほとんどが、マナーの必要性の理解と実習で活かせる回答であった。 公務員試験ガイダンスに関しては、希望者と講師の条件が合わず実施できなかった。	B	３.インターンシップに関するポスター、パンフレット、研修会資料、アンケート結果	３．インターンシップに関する、情報を発信したが、パンフレットを持っていった学生は数名であり、インターンシップ参加経験のある学生もごく少人数であった。｢実習時におけるマナー研修｣に関しては、2 年生 37 名参加し、アンケート評価もよかったことから、直近で現実感がある内容に関しては参加への動機づけになることがうかがえた。 公務員試験ガイダンスに関しては、少人数であることから研修請負業者の協力が得られず、実施ができない状況があったが、早めの準備が必要であり、ガイダンスの開催が課題。		
		４．学生に対してキャリア支援に関するニーズ調査を実施する。	４．学生に対するキャリア支援室の認識調査・ニーズ調査を 9 月 30 日に実施した。83 名の回答があった。 キャリア支援室の存在を知らない学生が 83%、キャリア支援室の役割について知らない学生が 78%、キャリア支援室にあるインターンシップ情報について知らない学生が 78%であった。キャリア支援室に対する要望では、複数回答で①就職・進学先情報の提供 74%②具体的な就職活動の仕方の説明 63%③面接試験対策 52%④就職・進学相談 49%⑤筆記試験対策講座 41%、⑥言葉遣いや挨拶などのマナー講座 39%の順であった。合同就職説明会の情報提供の希望は 17%であった。	A	４．アンケート結果	４．学生のキャリア支援室に関するニーズ調査実施したが、完成年度に至っていないことから、認識度と就職、進学に関する認識度がまだまだ低いという結果であった。キャリア支援室を身近な存在として、活用できる環境づくりと情報の発信が課題であり、次年度は場所を変更して環境づくりをしていくことが重要である。		
		５．キャリア支援委員の質の向上と支援体制整備のため、他大学のキャリア支援担当者を講師として、学習会を行う。9 月実施	５．キャリア支援室の整備、質向上のため、青陵大学の取り組みに関して、斎藤先生を講師に研修会の開催（9／16)、見学を実施（11／20）した。	A	５．研修会資料、見学時報告書、資料	５．キャリア支援担当の教職員の質の向上を目指して、研修会、見学を実施し、キャリア支援室としての役割、活動の仕方、運営に関することなどのノウハウに関して学ぶことができた。今後知りえた内容を、当大学バージョンでどのように展開して		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
						いくかが課題。		
		６．キャリア支援室の整備、補充（毎月会議時に行う）。 ７．採用のための求人担当者との面談・資料確保と公開を行う。	６．７．キャリア支援室の整備、資料補充に関して毎月実施 　書棚を購入し、パンフレット等の整備、補充の予定であったが、キャリア支援室を移転することになったため、次年度への課題として持ち越しとなった。	B	6.7.　キャリア支援室ファイル	6.7.　キャリア支援室整備、情報の公開等に関して毎月行ってきた。今後は、いかに学生の目に留まる、学生が興味を持つ情報の公開方法が課題。キャリア支援室移転に伴い、専従の職員などを考慮し、進学・就職に向けた対応が今後必要である。		
学術委員会	1.　年度内に紀要（長岡崇徳大学紀要）を刊行する	1-①紀要規程、投稿要項の見直し、追加・修正を行う（7 月） 1-②査読要項を作成し、その他査読に伴う手続きを明確にする（9 月） 1-③教授会等の場で原稿募集の呼びかけを行う（適宜） 1-④原稿の最終締め切り（11 月末） 1-⑤査読者の決定と依頼（適宜） 1-⑥編集作業（1 月～3 月） 1-⑦紀要の刊行（3 月）	１．紀要発行に向けて査読要項を作成し、査読における手続きを明確にした。 紀要発行に向けて一連の作業（原稿募集、査読・編集等）を行い、電子媒体により「長岡崇徳大学紀要第１号」を刊行した。	A	査読要項 長岡崇徳大学紀要１号	１．未整備であった査読の手続きを明確化し、査読要項を作成した。目標としていた紀要を刊行することができたが、掲載論文は資料の２編にとどまった。論文の質を保証するとともに、紀要が研究成果の闊達な発表の場となるように、査読指針や基準を明確にしていくことが今後の課題である。	１．2022 年３月に長岡崇徳大学紀要第２号を刊行し、前年度以上の本数の論文を掲載する。	1-①11 月末を原稿締め切りとし、適宜原稿募集の呼びかけを行う（通年） 1-②査読における具体的な指針を明確にする（6 月頃まで） 1-③査読者の選定と依頼を行い、査読結果の内容を参考に掲載可否を検討する（～1 月） 1-④編集作業を行い、紀要第２号を刊行する（3 月）
			２．研究における不正防止推進部署として、不正防止に関する学内の体制・諸規程等を整備した。	A	研究不正防止に関する各種文書	２．委員会事務担当である財務課を中心に、不正防止に関する体制・諸規程等を整備した。研究倫理審査委員会の主導で教員全員が研究倫理 e ラーニングを受講しているが、教員の研究活動を推進していくとともに、不正防止に関するさらなる啓発活動については、本委員会の今後の検討課題である。	２．研究における不正防止推進部署として、教職員のコンプライアンス教育の充実を図る。	2-①研究倫理 e ラーニングコース（elCoRE）の受講を喚起し、受講修了を確認する（4 月～） 2-②不正防止に関するガイドラインの改正等、最新の情報をタイムリーに伝達する（適宜）
							３．研究活動を推進するため、外部資金獲得の支援、研究環境の充実を図る。	3-①外部資金獲得等に関するセミナーの受講環境を整える（6 月頃まで） 3-②外部資金獲得等に関する情報について配信する（適宜） 3-③分析ソフト SPSS、Nvivo の使用環境を整備する（5 月） 3-④研究力の向上を支援する研修等の実施について FD 委員会と協議・検討する（3 月まで）
FD 委員会（シミュレーション）	シミュレーション委員会が吸収された 1.　より質の高い教育活動を推進し教育力の向上を図る。 2.　教員の研究活動を推進し研究力を高める。 3.　各領域のシミュレーション教育を推進す	1.　シミュレーション教育研修（阿部幸恵先生による講議・演習）	1. シミュレーション教育研修を Zoom により 3 回シリーズで行った。（講師：東京医科大学医学部看護学科　阿部幸恵先生） シミュレーション教育を実践していく上で初歩的な内容から実践まで具体的に学べ、教員のアクティブラーニングとなった。毎回のアンケート結果を講師に送り次回に活かしていただいた。参加率は各回 70～85%であった。	A	3 回の講義に対するアンケート結果、3 領域から提出されたシナリオ、FD 研修会としての活動に対するアンケート結果	1. シミュレーション教育に対する初歩的な内容から実践編までわかりやすく講義していただいたので具体的な理解が深まり、今後各領域の教員が次年度から実施していこうとする意欲が高まった。講師の要望もあり本学から具体的なシナリオを提示して助言をいただいたこと、Zoom で相互に顔を見ながらの意見交換ができ、教員のアクティブラーニングとなり成果が挙がった。R3 年度の授	1　より質の高い教育活動を推進し教育力の向上を図る。	1-1 シミュレーション教育研修会 昨年度に引き続き阿部幸恵先生に講師を依頼し、シミュレーション教育研修を行い、各領域でのシミュレーション教育実施を目指す。「学生のレディネスを考慮したシナリオ作成と実施」のテーマで 90 分の講演を Zoom で行う。 1-2 授業評価に関する研修会 　「大学における授業評価の必要性と意義を考える」のテーマで講演を依頼する。講師を選択し Zoom で 90 分の予定。

看護学部・看護学科の目標									
令和２年度								令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）								1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載					年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		委員会目標	年間計画
FD 委員会（シミュレーション）	る。					業にシミュレーション教育を行う領域が増える見通しであるが、その実践結果の確認を行い研究につながるように支援する。			1-3 授業評価アンケートの実施 1-4 授業のピアレビュー評価 1-5 授業改善に向けた授業評価アンケート及びピアレビュー評価の活用について検討する。
		2.　シミュレーション教育設備見学（新潟医療福祉大学）	2. シミュレーション教育設備見学はコロナ禍のため見学に行くことができなかった。	D		2 .新型コロナウイルス感染の収束状況をみて新潟医療福祉大の施設見学ができるか連絡をとる。		2　教員の研究活動を推進し研究力を高める。	2-1 研究方法に関する研修および研究報告
		3.　授業評価アンケートの実施	3. 前期・後期でアンケートを実施。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙に記入した。教務システムでの回答率は30～50%、用紙記入は 100%であった。	B	・授業評価アンケート	3. 授業評価アンケートはスムーズに実施できるようになった。教務システムによるアンケート回答率が低いため回答率を上げる工夫が必要である。自由記載の公表を全科目について行うかどうか、授業評価アンケート結果がどう授業改善に活かされているか検証が必要である。		3　各領域のシミュレーション教育を推進する。	3-1 FD 委員会活動に関する教員のアンケートを行い今年度の活動を評価する。
		4.　授業のピアレビュー評価	４. 公開授業・見学実施要領に基づき、学内教員が担当する科目について後期に授業見学・評価（ピアレビュー）を実施した。新型コロナ感染予防対策のため見学者数を２名に限定したこともあるが、見学者が少なかった。	B	・2020 年度公開授業・見学実施要領、授業見学予約表、見学申し込み用紙、ピアレビュー用見学シート	4. 前期はリモート講義が主だったため、授業のピアレビューを実施できなかった。後期から行ったが授業見学者が全体的に少なかったためR3 年度は通年で行うこととし、授業見学の機会を増やしピアレビュー評価が実施できるように計画した。ピアレビュー評価についても授業改善に役立てられているか検証する必要がある。			
		5.　研究方法に関する研修及び研究紹介	5. 学内教員３名による研究報告を９月、12 月、３月の教授会の前に行った。 出席率は 70～80%であった。	A	・研究報告の担当者、テーマの案内	5. お互いの研究を知り刺激し合う機会となり、テーマ、研究手法についての気づきや学びが多くあった。研究報告を担当した教員からも快く引き受けていただいた。今年度初めての試みであったが研究の完成度を評価するものではなく学び合う場なので、研究報告の目的を教員に浸透させ各自の研究が進むように継続していく。			
		6.　長岡技術科学大学との共同研究のための情報交換	６.　H29 年、準備室の段階で長岡技大と崇徳厚生事業団との包括的連携に関する協定を結んでいる。シミュレーション教育に関する研究が目標であったが、R 元年に技大と研究について話し合った結果、技大で進めている「毛髪のコルチゾールを用い	B		6. シミュレーション教育の促進を図る活動を実施し、今後研究が進むように支援していく。			

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
			たストレス研究」を提示され本学で協力できるメンバーを決めた。今年度はこの研究に直接関わってはいないが、メンバーによる段階的な研究を進めており、今後技大の研究テーマに共同で研究できる体制を整えていく予定である。シミュレーション委員会で研究の進め方について検討していたが、今年度から FD 委員会に吸収されたため､FD 委員会ではミュレーション教育の促進を図る活動を実施し、今後研究が進むようにして計画していく。 7. 今年度の委員会活動に対する教員のアンケートを 3/19 締めで行った。回答率 57.6％であった。アンケート結果をまとめ教員に配布した。（3/31）	B	2020 年度 FD 委員会活動に関するアンケートまとめ	7. アンケートの回答率が 56.7％であったため、回答率をあがるよう連絡の仕方を工夫する。しかし記述式なので内容は今後の委員会活動に役立つものであった。これらを活かし R3 年度の活動計画を立てるようにする。		
研究倫理委員会	1. 本学教員の、人を対象として行われる研究に対して、諸倫理指針に沿った倫理的配慮を図る。 2. 本学教員の、人を対象として行われる研究の倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を図る。 3. 倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、書き方を検討し改訂を行う。 4. 本学の「研究倫理綱領」および､「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。	1. 研究倫理審査会を開催する 1）開催回数は１年に 10 回とする。 2）本学教員の、人を対象として行われる研究の倫理審査会を通して、研究倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を支援する。 2. 研究倫理研修会を実施する。 1）日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニングの受講を勧める	1. 委員会開催回数は本員会 11 回、臨時委員会４回であった。本委員会 11 回の議題の第１は、研究倫理審査申請に対する審査であり､2020 年の審査総件数は 16 件､審査結果は承認 4 件、条件付き承認 4 件、変更の勧告 7 件、不承認 1 件であった。第 2 には、研究倫理委員会規程の確認、申請用紙の内容の検討（迅速審査チェックシートの研究課題目の記述を含む迅速審査の進め方の確認、研究に関する問い合わせ先の確認）であった。また､2020 年委員会活動目標･活動計画の確認と検討、ショートラーニングセッションを 2 回行った（①研究対象者への倫理的配慮について学会誌：研究論文を参考に話しあった。②既存の調査票使用と許可等に関すること：神戸市看護大学の規程を参考に話し合った)。 2. １）日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニングについては、教員の約 9 割が受講した。	B A	「委員会議事録」	１．本委員会の研究倫理審査申請に対する審査では、適正な審査を目標に申請者の研究全体を深く理解する視点から引用している文献等を委員間で再読し、その研究の研究対象者に対するリスクとベネフィット評価を行った点は良かったが、研究者が研究を遂行していけるような支援までには至らなかったため評価は「B」とした。 今後の課題は、研修会で得た結果を具体的な委員会活動にし、申請件数と承認件数を増やし研究への推進を支援していくことである。 2. １）研究倫理ｅラーニング修了証の図書館提出者は 26 名であり「A」とした。今後も日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニングのお知らせお	1. 本大学教員の、人を対象として行われる研究に対して、諸倫理指針に沿った倫理的配慮を図る。 2. 本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理に関する専門的知識･能力･研究方法の向上を図る 3. 本大学倫理審査員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 4. 本大学の「研究倫理綱	1. 本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理審査会を通して、研究倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を支援する。 2. 研究倫理研修会を実施する。 １）倫理審査の申請には日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニング受講修了証明書の添付を必須とする。 ２）年１回、講師を招聘し、医療看護に特化した人を対象として行われる研究の倫理に関する講習会を開催する。 ３）委員会委員の研究倫理審査に関する専門知識の向上を図る。 3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 １年に 11 回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。 4. 本大学の「研究倫理綱領」および､「教

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
研究倫理委員会						よび受講の促進と図書館への研究倫理ｅラーニング修了証の提出を周知することを継続課題としたい。	領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。	員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2021 年は､2020 年に引き続き本大学の｢研究倫理綱領｣および､｢教員の研究活動の倫理的指針｣の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。
		2）倫理審査の申請には日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニング受講修了証明書の添付を必須とする。	2）倫理審査の申請において、研究責任者しか日本学術振興会主催の研究倫理ｅラーニング受講修了証明書の添付しない研究倫理審査申請書もあったが、共同研究者の証明書を添付するように促すことによって全員の証明書が添付された。	A		2）倫理審査の申請において、研究責任者および共同研究者全員の証明書が添付されていたため「A」とした。今後は１回目の倫理審査の申請時には、共同研究者も含めた全員の証明書が必要であることを周知することが必要である。		
		3）年１回、講師を招聘し、医療看護に特化した人を対象として行われる研究の倫理に関する講習会を開催する。	3）令和３年１月 20 日（水）に研究倫理委員会 研修会「看護研究と倫理」を実施した。講演者は田代志門先生（東北大学大学院文学研究科准教授)、テーマは「看護研究と倫理」である。参加者は教員のみならず、臨床の看護師、学生（2 年生)、事務職員の合計 62 名が参加した。満足度は「良かった」「とても良かった」を選んだ人が 85.5%であった。参加できなかった教員の１名は、後日録画した講演内容を視聴した。	B	研究倫理委員会 研修会「看護研究と倫理」アンケート結果 研究倫理委員会 研修会「看護研究と倫理」ポスター	3）満足度において「良かった」「とても良かった」の合計が 85.5%であったこと、研修会の評価は高かったが自由記載に対象者の幅が広すぎたのではないかとの記載があり、事前にそのことについて委員会の説明が十分でなかったので「B」とした。 アンケート結果からは今後の課題として３つ①大学内での倫理審査の共通理解の必要、②研究支援体制づくりの提案、③事例報告、教育・看護の活動報告と実践報告等の倫理審査の基準作成、が抽出された。		
		3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、書き方の改訂を行う。 １年に 10 回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。	3．研究活動を促進するために、現在の迅速審査に関する申請書等の見直しを図ることとなった。他大学等の迅速審査について文献検討を行い、迅速審査の意義を確認したうえで、本学研究倫理委員会規定にある迅速審査の内容を踏まえ､｢研究倫理迅速審査依頼書兼チェックシート｣では、申請先の明確化、迅速審査の要件、同じテーマで再申請をする際に区別がつくように主な変更内容項目の設定、を修正した。この迅速審査の内容変更に伴い､｢研究倫理委員会への申請手続きについて｣も修正した。今年度中に修正を終了し、次年度４月の教授会で審議･報告の後、手続きを開始する予定である	B	「委員会議事録｣､｢研究倫理委員会への申請手続きについて｣､｢研究倫理迅速審査依頼書兼チェックシート｣	3．評価「B」の理由は今年度中に改正し、4 月から実施に移せなかったためである。2021 年度早期に教授会から承認を受け審査に用いたい。		
		4. 本大学の「研究倫理綱領」および､「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備を	4．申請用紙の内容の検討（迅速審査チェックシートの研究課題目の記	B		4．評価「B」は、倫理の基本となる資料は確認できたが、本大学の「研		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
		する。 2020 年は、本大学の「研究倫理綱領」および､「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて他大学の関係する資料を収集し検討する。	述を含む迅速審査の進め方の確認、既存の調査票使用と許可等に関すること）を神戸市看護大学の規程を参考に話し合った過程で「研究倫理綱領」および､「教員の研究活動の倫理的指針」作成に関連する資料を確認した。また、「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「看護者の倫理綱領」「看護研究のための倫理指針」の研究倫理の基本となる資料を共有し指針検討に活用した。評価は「B」とした。			究倫理綱領」および､「教員の研究活動の倫理的指針」の作成につながる資料の確認が一大学にとどまったためである。今後は委員会活動として計画的に資料を収集し検討していきたい。		
地域貢献委員会 R3～ 地域連携・貢献委員会(災害看護、ボランティア活動)	1.　地域の住民や看護職と連携を図り、本学の特色を活かした貢献を地域社会に提供する。	1.　本学の特色を活かし、市民に興味関心を持ってもらえるような市民公開講座を開催する。 2.　中越地域の看護職のためのキャリア支援について検討する。 ・近隣の医療機関に勤務する看護職を対象にニーズ調査を行う。 3.　中越地域の看護の質向上に活かせる看護研究支援を行う。 ・研究講座の企画 ・看護研究の相談 ・共同研究の推進	1.　新型コロナウイルス感染症に関連して、講座の開催日程を変更したが、再検討し、今年度は中止とした。１月に高齢者施設職員を対象とした講座依頼があり、その分野の教員を派遣した。 2.　長岡市近隣の看護職にキャリアアップニーズ調査を行い、その結果をホームページに掲載した。結果は、次年度の専門職向けの講座企画の参考とする。 3. 1）新型コロナウイルス感染症の影響で､開催日程を変更して実施した。実施にあたっては、感染症対策をとり実施に至った。一方、JA 長岡中央綜合病院への出張での看護研究講座は中止となった。 ２)看護研究相談は年度を跨ぎ(昨年度末)１件と他２件があり､その研究分野の教員に対応を依頼した。 ３)共同研究依頼はなかった。研究相談から共同研究に発展したものも無かった。	A A A	議事録参照 議事録参照 議事録参照	1. 市民公開講座は、試行錯誤した結果、中止したが、今後も対面での実施が望ましいと考えている。実施する上で、新しい生活様式に適した方法で実施し、その評価をしていきたい。 2. キャリアアップに関する調査結果は、次年度から看護職向けの講座を開講する資料となった。地域貢献委員会だけでなく、看護学部への期待を知ることができた。 3. 後期の研究相談はなく、看護研究活動が停滞したようであり、新型コロナウイルス感染症の影響もあったと思われる。看護研究講座を受講者やその所属施設の follow を行い、共同研究に結び付けていくことも検討したい。	1.　地域の住民や看護職と連携を図るとともに､本学の特色を活かした貢献を地域社会に提供する。 2.　災害時に対応できる学内の準備体制の推進。 3.　ボランティア連合会、地域社会と連携し､学生のボランティア活動を推進する。	1. 中越地域の看護研究支援 1）研究講座の企画・実施 2）相談や共同研究の推進 2. 地域のニーズに対応した市民公開講座の開催 3. 地域のニーズに対応した看護専門職向け講座の実施 4. 災害時の必要物品の調達（特に食料） 5. 安否確認システムの導入に向けた提言 6. 災害ボランティア実践マニュアルの作成 7. ボランティア連合会と連携したボランティア活動の推進 8. 学生のボランティア活動の推進と実践
大学連携委員会	1. 大学連携委員会の役割を検討し、規定を作成する 2．現在活動中の NaDeC、まちなかキャンパス長岡､ながおか･若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォー	1．第１回会議で大学連携委員会の役割を確認し、規定案を作成 2．まちなかキャンパス長岡 PR コーナー R2 年 5/1～6/30 展示、R3 年度展示の企画	1．第１回会議で大学連携委員会の役割を確認し､規定案を作成､4 月教授会で承認された。 2．まちなかキャンパス長岡 PR コーナー ・委員でパネルを作成し、教職員の意見により修正のうえ完成した。 ・コロナ禍のため、別コーナーにて	A A		目標１－５：ほとんどの項目において、コロナ禍の中、工夫しながら目的を達成できた。まちキャン長岡、NaDeC の分科会には夜間の活動であったが、各委員は参加し、大学で行う活動についてはできるだけ実施した。学生委員会の活動はほとんど、学生まかせとなっており、活動が見えない状況のままにしていた。次年	1　大学連携委員会の規定に基き､長岡崇徳大学と長岡市内４大学１高専および他地域大学と有機的に連携を行う。	1．まちなかキャンパス長岡に関する事業 1）まちなかキャンパス長岡ＰＲコーナー令和３年９月～10 月 2）まちキャン通信　　６月 3）まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 ①広報分科会活動 ②R4 年度「まちなか大学｣､「まちなかカフェ｣､企画

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
大学連携委員会	ス部会（看護系タスクフォース）の活動に積極的に企画・参加し、他大学等との連携を深める		7月末まで延長して展示した。 ・加えてまちキャン通信についても6 月号の崇徳大学担当版を作成した。		まちキャン通信６月号	度は学生委員会の相談窓口を設け、組織だった活動をしていきたい。		4）まちキャン１０周年記念イベント展示 9月11日　看護体験
		３．まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 R３年度｢まちなか大学｣｢まちなかカフェ｣企画	３．　まちなかキャンパス分科会 1）まちなかカフェ分科会：企画に参加した。令和３年度の企画および講師の推薦を行った。 2）まちなか大学・大学院分科会：本学教員を講師として推薦した まちなか大学５回連続講座『老後を〈健幸〉に生きるための備え』 うち３回は本学教員３名(袖山教授、望月教授、古澤助教）担当。 3）広報分科会：R3年３月～4月の4 大学１高専との合同展示のパネルを作成した。	A A A	まちなかキャンパス長岡のテキストに記載 まちなかキャンパス長岡 令和２年度講座一覧		2　現在活動中の NaDeC、まちなかキャンパス長岡、ながおか・若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会（看護系タスクフォース）の活動に積極的に企画・参加し、他大学等との連携を深める。 3　1，2の活動を通して、学生、地域に還元する。	２．NaDeC に関する事業 1）分科会・運営委員会への参加 ①コンソーシアム会議・運営委員会の出席 ②就職・インターンシップワーキングＧ（8月企業紹介イベント担当） ③産学協創ワーキングＧ（本学とコラボを望む企業との連携） ④授業連携ワーキングＧ（長岡学担当） ⑤起業ワーキングＧ ３．長岡しごと体験ランド（2020 年はコロナ禍のためＤＶＤ作成） 参加のための具体的な企画・運営 ４．看護系タスクフォースの参加（2020 年度は通信作成） 学生と共に参加
		４．長岡しごと体験ランド（2019 年度は2020 年１月12日実施）参加のための具体的な企画・運営	４．長岡しごと体験ランド ・コロナ禍のため、小学生を対象としたオンラインの講座とすることが決定し､担当者が学生の協力を得て､看護体験の DVD 作成を行った。動画については機構から本学内外への広報用として使用許可を得た。	A	長岡若者しごと機構のホームページに掲載		4　本学における起業を検討する。	５．本学における起業について検討する。
		５．看護系タスクフォースに学生と共に参加	５．看護系タスクフォース ・コロナ禍のため、新潟県内の看護学科を有する大学ではニュースレターを発行することとなり、学友会会長に協力を得て、記事の提供を行った。	A	ニュースレター			６．その他の活動 大学連携委員会を窓口とした事業については、目的を勘案し、他の委員会等と協力して実施する。
		６．NaDeC 構想事業(案)の検討と提出	６．NaDeC 構想事業(案)の検討と提出（会議は夜間になることが多い） ・コンソーシアム会議には学長が出席、運営委員会には委員長が出席した ・昨年まで４分科会のうち２分科会に参加していたが、今年度は４分科会すべてに参加した。 ・就職・インターンシップワーキングＧは１回の会議を行い、２月に企業の紹介が長岡大学で行なわれ、本学からも３名 Zoom で参加した。 ・起業ワーキングＧは数回の会議を	C	第 13 回 NaDeC コンソーシアム会議記録 R2　NaDeC 運営委員会等担当一覧表 ファーストペンギンプログラム	目標６：NaDeC が推進する起業という視点で本学における独自の活動は困難だった。柏崎ポーターズ代表の小池氏に独自に講義を依頼して委員全員が出席し、検討したが、看護大学という視点から起業に結び付くまでは至らなかった。今後の課題である。産学連携に関するアンケートで、本学(学部)との連携を希望する企業があり、今後どのように対応するかの検討が早急に必要である。		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
大学連携委員会			経て、ファーストペンギンプログラムを完成させた。本学の起業に関する窓口は企画･連携課長と決定した。本学の完成年度までは、学生の起業セミナー参加が難しいため大学としての企画は設けず、情報の発信と会議への参加を継続することとなった。 ･産学協創ワーキング G はオンラインでの会議を行った。補助金の見直しと、産学協創の取り組みに関する現状把握のためのアンケート調査を企業と大学教員に対して行った。本学は教員に大学連携委員会からメールでアンケート調査について依頼し、実施した。明確な回答率は不明だが､NaDeC 担当者からは回答率は良かったと聞いている。 ･授業連携ワーキング G は数回の会議を実施しており、単位互換を進める検討を行った。単位互換については学長レベルの大きな課題のため、授業連携の中でもチームを別扱いとして検討を進めることとなり、本学においては、教務・学生課の風間課長を窓口担当として検討を進める。		リーフレット			
		７．NaDeC 授業連携分科会(長岡学)への講師派遣	７．NaDeC 授業連携分科会(長岡学)への講師派遣 ･授業連携ワーキング G で進めているもので、本学では「生きるを支える長岡の地域包括支援と看護職の役割」の担当と講師を提案した。	A		目標７:「生きるを支える長岡の地域包括支援と看護職の役割」の担当と講師を提案した。今後他大学と調整し、進めていく。		
			８．その他 ・起業に関する講演会を本委員対象として実施した（柏崎ポーターズ）。 ・新潟日報チラボについて、本学学生による記事投稿にあたり、支援を行った。8 月には「コロナ禍におけるメッセージ」、12 月には「NaDeC、まちキャン長岡、タスクフォースなどの活動を通して感じたこと」の記事が掲載された。 ・和歌山大学主催の「地域と大学を繋ぐコーディネーター」のための研究実践オンラインセミナー（全４回）	A A A		目標８：また、計画にはあげられていなかったニイガタ地ラボに学生 2 名が参加できるように支援することで、新潟日報に掲載することができた。大学連携委員会の活動範囲は長岡市と 4 大学 1 高専との活動であるまちキャン長岡、NaDeC、ながおか若者子ども機構の活動にとどまらず、長岡市中心市街地整備室の「子どもラボ・若者ラボ」連携ワークショップの依頼、加えて看護系タスクフォースや地ラボの活動など多岐にわたっている。委員の人数が限られ		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
			に参加し、コロナ禍における今後の地域連携の進め方について、全国の参加者と意見を交わすことが出来た。特に第３回では「コロナ禍で地域連携を再開する基準」をテーマとした神戸市看護大学のプレゼンは、同じ医療・看護系大学でもあり本学としても参考になった。 ･2021 年度のまちキャン長岡および NaDeC 学生委員の交代にあたり、説明会を実施し、1 年生の総意でまちキャン長岡３名、NaDeC2 名を決定した。	A		ている中、活動の整理をしながらできる限り他大学や長岡市と本学を繋げる活動を展開する必要がある。		
国際交流委員会	1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる 2. 海外の大学との協定締結に向けて、候補となる国、大学等について具体的に検討する	1-1.「キャリアデザインⅠ」の授業でインドネシア出身 EPA 看護師を招聘し､インドネシアの医療・福祉・文化について理解を深める（6 月）	1-1. インドネシア出身 EPA 看護師による講演会を 6 月に実施し、1 年生（対面）58 名、2 年生数名（オンライン）が参加し、質疑応答では 1 年生からの質問に応えていただいた。教職員数名はオンラインで聴講された。 12 月の予算請求時に次年度の国際交流委員会企画講演会の企画を行い、年度内に原案を作成した。	B	講演会ポスター 講演会報告（大学ホームページ） 講演会質問用紙・総括 委員会議事録	1-1. インドネシア出身 EPA 看護師による講演会 講演会は 1 年生の国際的視野を広げ、海外からの看護師が日本で資格を取得することの困難やその思いを直接知る機会となったことは収穫であった。しかし、講演時間の使い方、オンラインを含めた質疑応答法の工夫などについて経験不足であったため「B」評価とした。次年度は、計画を早めに行い委員会メンバーで事前準備を行うことが課題である。	1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療･福祉の現況や文化について学ぶ機会をつくる 2. 海外の大学との協定締結に向けて、候補となる国、大学等について具体的に検討する	1-1.介護福祉学科の外国人留学生との学生間交流の機会を設ける、インドネシアの医療･福祉･文化について理解を深める（6 月） 1-2.長岡技術大学の留学生との学生間交流の機会を設ける（10~11 月） 1-3.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する 2-1. 協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する。 2-2. 国際交流プログラムを検討するための基礎資料として、学生・教員を対象とした意識調査を実施する（前年度より継続課題）
		1-2.介護福祉学科の外国人在学生（中国、ネパール）との学生間交流の機会を設ける（10~11 月）	1-2. 介護学科留学生（ネパールより 2 名）の情報を得て、交流会実施日程等について調整したが、調整が困難であったため実施できなかった。次年度開催の検討を行った。	D	委員会議事録	1-2. 介護福祉学科の外国人在学生（中国、ネパール）との学生間交流 企画・調整に時間を要し、交流日時の設定が整わず開催できなかったため「D」評価とした。また、介護学科の学生は実習のない期間は講義が詰まっており、調整が難しいため、年度当初から依頼を始める必要があった。	3. 海外研修や国際看護活動に関する情報について広報活動を行う	3-1.学生に向けて国際交流や海外研修についての広報活動を行う。 3-2.海外研修・留学に関連した奨学金情報の提供 3-3.教職員のための海外研修促進と支援を行う
		1-3.長岡技術科学大学の留学生との学生間交流の機会を検討する	1-3. コロナ禍のため留学生との交流は未実施であったが、長岡技大の国際交流課を通じた情報収集や協力依頼の第一歩を踏み出すことができた。留学生会会長にメールで交流の申し入れを行ったが、コロナ禍で全く交流ができない状況であった。	C	長岡技術大学大学概要(英語版) 長岡技大国際展開 VOS(広報誌) 長岡技術大学ツイニングプログラム	1-3. 長岡技術科学大学の留学生との学生間交流 コロナ禍のため留学生との交流は未実施であったが、長岡技大の国際交流課を通じた情報収集や協力依頼の第一歩を踏み出すことができたため「C」評価とした。留学生会会長にメールで交流の申し入れを行い、コロナ感染症状況を把握しながら、交流の機会や本学学生の意向を探っていくことが課題である。		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
国際交流委員会		1-4.長岡市国際交流協会開催の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する	1-4.　長岡市国際交流協会訪問により活動内容についての情報収集、および長岡市「地球広場」での在日外国人支援に学生が参加可能性について確認した。コロナ禍で交流プログラム等が中止であり、実際に学生への情報提供は行えなかった。	C	長岡市国際交流協会ホームページ	1-4.　長岡市国際交流協会の活動内容についての情報収集 　長岡市の外国人居住者への支援対策や国際交流のための姉妹都市提携など、情報収集のみに終わってしまったため「C」評価とした。コロナ感染症と活動状況を把握しながら、本学学生の意向にそった活動を支援することが課題である。		
		２-1. 協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する（年間）	2-1.　協定校調査については、長岡市国際交流協会から長岡市が協定を結んでいる大学名の情報を入手し、必要時には長岡市からの紹介を得られることがわかった。学生の意識調査や教員全体からの情報収集を事前に進めることとした。	C	議事録	２-1. 協定校となる国･地域･大学について調査 　協定校調査に踏み出すまえの教員の個人的な国際交流実態調査に終わったため「C」評価とした。次年度は、学生への意識調査の結果を踏まえ、大学の中長期目標の「Ⅳ.社会連携・社会貢献」項の「地域社会および国際社会への貢献」と示されている内容と本委員会の目標との整合性を考慮しながら実施計画を進めていくことが課題である。		
		２-2. 国際交流プログラムを検討するための基礎資料として、学生・教員を対象とした意識調査を実施する	2-2.　学生対象の国際交流活動についての意識調査は、研究倫理委員会の承認過程があったため、年度末実施の予定を変更し、4 月に 3 学年とも実施することに変更した。教員対象の調査として、メールによる情報提供を依頼したが、返信が半数程度であった。詳細の聞き取りは次年度に持ち越すこととした。	C	研究計画申請書 学生対象:国際交流活動についての意識調査用紙 教員対象:国際交流活動に関する情報提供依頼（メール）	2-2.　学生・教員を対象とした意識調査 　学生対象の意識調査についての研究倫理審査に時間がかかり、調査開始が 4 月以降に延期されたため「C」評価とした。次年度の課題は、教員の国際交流実態調査を進めるとともに、学生の意識調査の実施・結果分析・提言を行えるようにすることが課題である。		
			2-3.　その他 長岡赤十字病院の「外国人患者受け入れ医療機関認証 JMIP」について調査し、情報を得た。外国人受診者への支援状況や具体的内容については数が少なく産科受診者が中心であった。 　学生向けに留学に関するパンフレットを取り寄せた。資料の展示を積極的に行うために、閲覧用マガジンラックを次年度予算請求に追加した	B	議事録 R3 年度計画・予算書			

看護学部・看護学科の目標

令和２年度	令和３年度
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）	1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
実習委員会	1. 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱが円滑に実施できるように基礎看護学領域と連携する。 2. 新たな実習施設の開拓を行う。 3. 実習施設と連携・協働による実習指導体制を構築する。 4. 各領域の実習要項作成のとりまとめを行い、各領域が配布できるようにする。 5．令和３年度の実習に向けての準備をする。	1. 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習オリエンテーション（全体オリエンテーション及び準備） 1）基礎看護学実習Ⅰは７月に実施 2）基礎看護学実習Ⅱは令和３年１月に実施 3）実習の携帯電話・手土産・教員の保険加入について実習開始前に準備する。 4）実習必要物品の購入（マスク等）	1.1)-1,2 基礎領域と連携し実施することができた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、本学の実習における感染対策の学生指導対策（資料１・２・３）を作成し、関係者に配布した。基礎看護学実習Ⅱは、基礎看護学領域と学部長の協議により、学内実習となった。なお、実習期間に同居家族の発熱者による学生の実習の自宅学習が１件あった（学部長と科目責任者と協議を行い学生は自宅待機となったが評価日には出席できた)。今後の領域別実習が可能かどうかを含め、コロナ禍での実習方法について検討することを領域で検討するよう勧めた。 1.3) 4) 実習に係る物品や携帯電話等については事務局と連携し滞りなく完了した。なお、携帯電話の契約については実習中止に伴い事務局に連絡することの必要性が明らかになった（事務の機転により回避できた)。 ＜補足＞ ・実習での看護技術の体験を明らかにし、授業や演習に活用するために技術経験録を作成し、学生に配布予定である。 ・コロナ禍にあり１年次学生のユニフォーム採寸等を感染防止に留意しながら行なった。昨年度のナース靴についてのクレームを活かした指導を行い、今年度は学生からのクレームはなかった。	A	時間割参照 資料 1 新型コロナウイルス感染症に伴う実習の可否を判断する基準　資料 2 新型コロナウイルス感染症実習対応　資料 3 長岡崇徳…略…実習ガイドライン 実習関連参照（2020 年度実習対応・コロナ対策、ユニフォーム採寸参照）	１．２・４・５については予定通りに実施できＡ評価とした。３．実習指導者会議については、中止としたが、それを補う対策については、実習窓口を中心に領域ごとに情報提供し連携に取り組んだ。しかし、コロナ禍での本学の学生の授業の様子や学内実習の成果について通信類の発信等の取り組みもあるのではないかと考えＢとした。 ＜課題＞ １．コロナ禍における領域別実習での基準作り（実習のねらいに近づくための領域の工夫）の検討が必要である。 ２．コロナ禍における新たな実習展開方法や実習施設との連携の検討が必要である。 ３．将来的に地域包括ケアシステムが中心となることから、本学の法人との連携が深められる実習指導体制づくりの構築 ４．実習指導と授業、社会貢献、研究など大学教員としての役割を達成するためのマンパワー不足	１．１･２・３年次の実習が円滑に実施できる。 ２．新たな実習施設の開拓をする。 ３．2022 年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。 ４．実習施設との連携体制を整える。 ５．コロナ禍に対応した実習への取り組みができる。	１．１･２・３年次の実習が円滑に実施できる。 1）実習物品の準備及び調整 2）実習窓口担当中心にした実習病院との連携 3）実習オリエンテーションの実施 ２．新たな実習施設の開拓 1）領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2）文科省の認可については事務局と連携して進める。 ３.2022 年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。 1）実習要項の作成および製本 2）実習病院との契約及び必要物品の確認 ４．実習施設との連携体制を整える 1）実習指導者会議の開催 2）実習窓口が中心となり、窓口担当役割に沿って実習調整をする。 ５．コロナ禍に対応した実習の取り組みができる。 1）実習中の感染防止マニュアルの見直し 2）学内実習に向けた環境の整備 3）各領域の取り組みの共有化
		2. 実習指導者会議及び実習に向けての病院訪問で看護職から情報を得る。	2. 新たな実習施設の開拓に向けては、領域および窓口担当が中心になり情報収集し、対応した。厚生連長岡中央綜合病院の基礎看護学実習Ⅰを１グループ 1W、母性看護学実習の実習先拡大もできた。また、実習窓口が中心となり､2021 年度の実習先との契約を事務局と連携し、滞りなく完了した。	A	実習関連（実習施設・実習表・窓口参照）			
		3. 実習指導者会議を令和３年３月 12 日	3. 1) 2) 4) 5) 実習指導者会議はコ	B	事務と連携し中止の通信を送付			

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
実習委員会		に開催予定である。 1）昨年度のアンケートを集計し、実習窓口がその対応をまとめ教員に周知し、それを基に連携体制を調整する。 2）連携に資す資料をもとに、実習先との共通理解を図る。 3）実習窓口担当教員の役割を明確にする。 4）実習施設訪問 5）事務局と連携し、実習契約を今年度中に結ぶ（契約施設は当初より増え、60 程度）。 4．実習要項の作成 1）2020 年度臨地実習共通要項及び基礎看護学次週要項Ｉを６月までに依頼製本する。 2）小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学実習要項の調整製本を令和３年１月に完成する。 3）関連実習施設への配布を令和３年３月までに行う。 5．実習準備 1）専門学校の実習先の物品の整理調整を９月から開始する。 2）新年度の実習の共有物品の購入と使用にあたっての手順書作成	ロナ禍において実習病院の負担を考え中止することを教授会に提案し、了承された。なお、昨年度の後期の実習委員会実習中止に伴い実施したアンケート調査を基に領域が実習調整に活用し、連携に努めた。 3.3）については、実習窓口業務を作成し、それに基づき実習先を訪問し調整したことで統一した連携ができた。 <補足＞ 実習委員会規程に基づき、実習指導者会議の覚書を定めた。 ４．実習要項担当委員のもとで領域代表の委員が取りまとめ、校正を行い、予定通り納品でき、６Ｆ 印刷室に落丁等の確認をし、収納した。実習委員会で協議し、施設への配布等の検討していく。 ５．看護専門学校副校長と実習委員長が協議を行い、実習病院物品の授受の確認を事務局同席のもとで行い、事務管理とした。なお、新年度の実習に向けての購入物品配置場所は、事務局と協議をし、６Ｆ 印刷室隣とした。来年度の実習に向けての物品購入の手順作成は今年度中に行い、次年度に検討する。 ※計画にあげていなかった項目は、<補足>として追記した。	A	実習関連（実習窓口記録参照） 実習関連（規程及び覚書参照） ６Ｆ印刷室に保管 専門学校備品は､実習委員会で報告し、事務が目録を管理 第 12 回実習委員会議事録参照			
国家試験対策委員会	1. 看護学の基礎力アップのための方法を検討・実施する 2. 低学力の学生の個別指導のあり方を検討・実施する 3. 新１年生への新年度対応を昨年度の評価に基づき検討・実施する	1. ２年生の看護学の基礎力アップの方法を具体的に提示できる	年間計画について、国家試験対策はＣＯＶＩＤ－１９によるリモート授業により、大幅な変更を余儀なくされたが､後半できることを実施した。 計画１について２年生の看字テストの計算問題のテスト成績が不良な学生がおり、この学生のフォローのために各委員が学生を受け持ち、計算ドリル問題を学習させ指導をおこな		模擬試験の結果は､教授会で配布してきたので参照のこと。 また議事録を参照	1. 基礎学力の向上には、学習習慣をつける自己学習を主体的に行えるであるが、看字ドリルや計算問題ドリルがどの程度役だったかの評価が十分行われなかった。今後アンケート	各学年担当により年間目標を立案し運営実施する 1. 一年次： １）ドリル学習による学習習慣をつける（評価アンケート）、 ２）解剖生理の知識の定着化を図る（評価テストの得点が９割の学生が 60%以上である）、	１一年次：看字ドリル学習とテスト３回、解剖生理教員模試２回、業者模試１回、解剖生理ドリル学習の開始、各試験への個別相談

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
国家試験対策委員会	４．図書館の環境整備		った。			により評価をする	３）ドリル学習により基礎力が得られる（評価：テストの得点が 9 割の学生が 60%以上である） ４）模擬試験の結果を自己分析できる（評価リフレクションシートへの記入）	
		２．（現２年生が）３年次に向けた実習前の国家試験と連動した学習方法を作成する	計画２，2021 の秋から実習がはじまるので、状況設定問題を 2021 年に実施し実習との連動を図るよう手である			2．２年生の低学力者の傾向を把握できてきたが、それへの克服については個別指導で自覚を促すにとどまった。今後、模擬試験ごとのリフレクションシートの活用により、学生の自己分析を恒常的に行い、学生自身による弱点克服のセルフマネージメントをできるようにする	2. 二年次： １）解剖生理等の基礎力が得られる（評価：テストの得点が 9 割の学生が 60%以上である） ２）模擬試験の結果を自己分析できる（評価リフレクションシートへの記入ポートフォーリオにより振り返る）	2.二年次：看護計算ドリル（低得点者のみ）と個別相談、解剖生理ドリル学習の継続と個別指導と教員作成試験２回、業者模試２回
		３．新１年生への看護学基礎力アップの計画の提示をする：看字テスト、模擬テスト等の実施	計画３、1 年生は看字ドリルの学習開始が遅れ現在テストが終了していないため、終了後対策を検討予定である。また解剖生理のドリル学習を 2 年次から開始予定である			3．1 年生の対応は、20 年度はＣＯＶＩＤ－１９で看字ドリルとテストの実施がやっとで十分な展開が実施できなかった。1 年生つまり 21 年度は 2 年生になるが、年間計画の見直しで、対応を図る予定である。	3. 三年次： １）解剖生理・疾患の知識の基礎力を得られる（評価：業者模試で全員 60%の得点が得られる）、 ２）看護の一般的知識の習得が図れる（評価：業者模試で全員 60%の得点が得られる）	3.三年次：必修問題ワークブック学習と個別指導、教員模試２回、業者模試５回と個別相談、業者講義１回
		４．図書館に国家試験用のスペースを確保し学習環境を整える	計画４、国家試験スペースに本箱も整えられ、環境整備がなされはじめた			４．図書館の国家試験対策コーナーは、本箱の設置、必要書籍の購入などにより少しずつ整えられてきている	4. 四年次： 計画は立てているが､本年次実施はない	4. 四年次：計画の実施なし
		５．国家試験に関連した図書を整備する	計画５、後援会の補助もあり、国家試験用図書を選定し、購入した				５．教員の学習指導力を高めることができる（学生の学習力を高める検討会を開催できる）	5. 担当委員による事例検討会
		６．ポートフォーリオによる国試対策教育の充実を図る	計画６､模擬試験等の実施が遅れ､ポートフォーリオの活用が十分ではなかった				６．学生委員の活動を促す（評価:委員会を年４回開催し､学生の主体的意見で活動できる）	6. 学生委員会の開催：年４回
		７．低学力学生の指導体制の強化	計画７、計算問題で、個別指導を行い低学力の学生の傾向が把握でき、問題を共有した				７．「国まる」のソフトおよび周辺機器の購入による作業の迅速化を図る	7. 試験問題作成と回答用紙（マークシート）処理ができるソフト「国まる」及び付属機器の購入をする
		８．学内担当者 FD の開催	計画８、ＣＯＶＩＤ－１９の影響もあり開催できなかったが、年度末専門業者から 2021 の国家試験の情報交換をする機会を得た					

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
保健衛生委員会	1.　学生の健康管理支援を行う 2.　学生の健康障害を防止する 3.　保健室管理の充実	1.　健康診断の指導・結果の確認をする 要精検者への受診勧奨と指導をする 健康チェック用紙記入の指導をする 自己管理ファイルで自己管理の指導をする 個別予防接種状況の把握および必要な学生への指導 学生委員会と連携し、情報共有する	１．４月３日に新入生、４月６日に２年生のオリエンテーションで定期健康診断と健康ファイルについての説明を行った。 ４月６日に新入生と４月７日に２年生全員がコロナ感染症対策に配慮しながら健康診断を受けることができた。健康診断の要精検者への受診勧奨と行い受診状況の確認を行った。 ２年生は６月 22 日、１年生は令和３年１月 19 日に全員から健康管理ファイルを提出してもらい、健康診断結果の記入とワクチン接種についての確認を行った。必要に応じて個別の指導を実施した。 コロナ感染症対策として、３ か月毎の健康チェックと行動履歴用紙を配布し記入してもらった確認した。 委員長が学生委員会の会議で情報の共有と感染対策については事務も含めて協働で消毒と学内環境を検討した。	B	学年歴 健康診断結果 健康チェック､行動履歴用紙(　４月・７月・10 月・１月３か月分) ４回配布 第３回議事録(健診結果)	１．要精検者の受診後の治療状況、個別予防接種状況は十分に把握できている。健診の結果についての不明な点については、健診センターに問い合わせをして学校医と連絡を行い確認ができた。対面授業開始が６月になり自己管理ファイルの指導時期が遅れたことも要因ではあるが、ワクチン接種の未報告者が数名おり指導が徹底できなかった。ファイルの点検時期と指導の徹底が必要。<br　健康チェック用紙と行動履歴記録用紙を３か月毎に１年間を通して学生に配布し、記入を促していたが、記入やファイルの管理ができていない学生もおり学生の意識への働きかけが課題となった。	（学生委員会と合併）	
		2.　予防接種の実施（インフルエンザ） 名簿作成し日程調整を行う	２．インフルエンザ予防接種は１年生 11 月６日、２年生 10 月 23 日に希望者は予定通り予防接種を全員に実施した｡HB ワクチンについては６月 22 日までリモートでの授業のために登校できなかったために HB ワクチン接種の日程調整ができず次年度に変更。	A	第４回議事録	２．インフルエンザ予防接種は病院との調整も問題なく実施できた。当日の連絡なしで欠席者がいたので注意喚起を<br　　しっかり行うことが課題である。新型コロナワクチンについては接種予定の調整中で次年度へ引き継ぎとなる。		
		3.　健康管理に関する啓蒙活動 感染対策の指導をする 保健だより発行と掲示をする	３．学生の使用する場所の清掃と新型コロナ感染症対策について学生委員会と連携して、消毒の設置や清掃方法について対応を行った。さらに「対面授業を行う上での注意点」を５月 28 日 Web で学生に向けて発信。 ６月 22 日から対面授業開始日は委員全員が正面玄関で学生の体調チェックと健康管理状況の確認を行った。 ６月 22 日の対面授業に向けて１年生６月 19 日、２年生６月 17 日に「授業開始に向けた新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新しい生活」について Web 上で説明を行った。	B	学生へ配信資料 スライド資料 （６月 17 日・６月 19 日） 保健だより２回 （７月 20 日・10 月 26 日）	３．新型コロナ感染症に対する対応は学生委員会と連携して実施できており、また啓蒙活動もタイムリーに効果的にできた。今後も引き続き保健だよりの発行を計画する。ただし学生の講義室の使用後の消毒やアルコールの手指消毒の使用状況を見ていると、指導が徹底されていない状況であり、今後行動変容に向けた具体的な検討が必要となる。		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
保健衛生委員会		4. 保健室の物品補充を適宜行う 保健室の環境を整える 学生対応は担当教員を決めて掲示する 学生対応記録を記入・保管する	保健だよりは６月と 10 月に２回発行。 ４．保健室の担当を毎月毎で決めて学生に周知した。学生や教員の怪我等で当番の教員が対応し記録を記入・保管できた。４月から６月までリモート授業で学生が登校しておらず、７月から学生８件、教員２件と保健室利用状況は少ない。当番の教員がノロウイルスキットの消毒液を交代時に作り保管した。定期試験期間も担当教員を決めて待機した。今年度は車椅子を購入して保健室に設置できて、緊急時に使用できた。利用状況を検討し、必要な物品の補充ができた。	A	保健室利用票・対応記録	４．現在は保健室の利用者も少なく、担当教員で対応できた。定期試験中も保健衛生委員会メンバーが分担して待機できたが次年度以降の学内の状況から保健室の担当教員の確保が困難な状況になることが予測され保健室利用者の対応者の確保の検討が必要である。保健室は当番制で管理は問題なくできた、また必要な物品はすぐ購入・補充できていた。		
継灯式委員会	1. 参加者の安全を考慮した継灯式が行えるよう準備を行う。 2. 学生委員会と連携を図る。 ３．学生と連携をとり、学生主体の式になるよう支援する。 ４．次年度以降の基盤となるスケジュールの作成を行う。	１．①備品の準備を整える ②案内状の発送準備 ２．学生委員会と連携を図り､委員会活動がスムーズに行われるようする ３．①学生の意見を取り入れながら､学生主体になるよう支援する ②練習の場所の確保や練習の指導など計画をたてて行っていく ４．振り返りを行い､次年度に繋げていく	１．２年次行事を目標に役割と担当者を決め備品の準備、来賓リスト、スケジュール、シナリオ作成を行った。学生の委員会の意見なども取り入れながら準備をした。 ２．2020 年度から、学生委員会の傘下となり、 連携を図りながら準備を行った。 ３．新型コロナ感染予防を考慮し、2 年次は見合わせ、3 年次に行うこととし、今後も 3 年次に行うことを教授会で承認された。 ４．日程と会場　参加者が決められた。 期日：令和 3 年 5 月 22 日（土曜日） 14 時 00 分～15 時 00 分				（学生委員会と合併）	
図書館運営委員会	1 図書館利用促進(学生、教職員) 2 教育・研究活動への利便性促進 3 崇徳厚生事業団及び地域住民への広報	1-1）図書運営委員会を定期的に開催する 1-2）グループ学習室の利用環境を整える	1-1）2020 年は委員会を 10 回開催した。 1-2）特に国家試験の学習がグループでもできるように 9 月から 10 月に図書館の端の一隅に国家試験関連文献用の書架を配置し学習室を設置した。国家試験対策委員と連携し、問題集等、国家試験関連文献を受け入れた。また、2 月には大学父兄会から	B A	「委員会議事録」 「図書目録」	1-1 委員会は必要時に開催された。委員会を定例とするために、月日曜日を設定していく必要がある。 1-2 国家試験の学習室は設置できたが、ラーニングコモンズ・ライブラリーの機能が発揮できるような、図書館のスペースの調整が必要であり、グループワークにラウンジも活用できるように事務局と調整していきたい。	1.図書館利用の促進	1-1)グループ学習室の利用環境を整える 1-2)利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する 1-3）図書館だよりの発行；学生、教職員による年 2 回の定期的な発行をする 1-4）図書館企画行事（図書館ツアー･著書･研究紹介） 1-5）土曜・日曜等の休日開館 1-6）崇徳事業団への周知 1-7）図書館利用者数を記録し､月別集計を行う

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
図書館運営委員会			国家試験対策用の図書を寄贈していただき、学習室としての環境を整備した。					1-8）学外の図書館利用者数を記録し､月別集計を行う
		1-3）利用状況を月単位で集計し、教授会、図書館便りで公表する	1-3）10 月から図書館利用者を月単位で集計した。利用者の確認は、時間を決め、その時間帯の利用者を、学生、教員、専門学校生、学外者にわけてカウントした。10 月の利用者が 1055 人と最も多く､11 月､12 月､2 月は 800～900 人、1 月と 3 月は 400～500 人であった。	C	「図書館利用者集計表」	1-3 図書館の利用状況調査は後期のみで、手作業によるカウントでああった。2021 年度には電動入館カウンターが設置できる。正確な利用状況の調査集計から図書館利用促進につなげていきたい。	2.教育・研究活動への利便性促進	2-1）教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う（学生、教員） 2-2）図書館の電子利用を促すための環境を整える 2-3）電子資料(電子ジャーナル・文献 DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う 2-4）領域別資料選定(図書・雑誌・視聴覚資料)
		1-4）図書館だよりの発行；学生、教職員による年２回の定期的な発行をする	1-4）4 月から学生と図書館運営委員会の教職員が一緒になって図書館の専門図書や雑誌に関するニュースなどについて、気軽に読める図書館だよりの検討を始め、1 月に紙面で発刊した。初めての図書館だよりであったため、編集にかかわる学生や教職員は十分な準備ができなかった。また年１回の発刊にとどまった。	C	「図書館だより」	1-4　長岡崇徳大学らしい内容のある図書館だよりにするために、次回の発刊では、図書館だよりの発刊に関心のある学生が多く編集にかかわれるよう、そして学生と図書館運営委員会の教職員が一緒になって、内容のある図書館だよりとしていきたい。	3.第２図書室の運営	3-1）第２図書室の運営 3-2）図書の移動 3-3）図書館運営(職員の増員等)
		2-1）教育研究環境を充実させるためのニーズ調査を行う（学生、教員）	2-1） ・学生向けのアンケート用紙を作成して、１年生は 11 月 20 日、2 年生は 11 月 18 日にアンケートを実施した。１・２年生 93 枚配布、回収 87 枚（回収率 93%）。結果を受けて検討を行い、図書館内の文房具類の設置の希望についてはホチキスやハサミなど設置した。館内で飲食をしている学生には、図書館の環境保持について説明し指導した。また、土曜日の図書館開館を求める記載が多かったので、試験的に後期試験に合わせて土曜日の開館を 3 回行った。1 月 30 日は 8 名,2 月 20 日は 2 名,3 月 6 日は 9 名の利用があり、利用時間はほぼ 1 日滞在していた学生が多かった。11 月と 3 月に学生へのインタビューの予定であったが今年度は実施できなかった。 ・教員向けのアンケートは 3 月 2 日にメールで全教員へ発信し教員のニーズを 1 部であるが把握できた。回答 10 名（回収率 37%）	B	「1 年生と 2 年生の学生アンケート集計表とグラフ」 「教員へのアンケート集計表とグラフ」	2-1）学生と教員に向けてのアンケートを行い、今年度の目標のニーズの調査はできた。　ニーズの中の環境の一部整備と試験的に土曜日の図書館開館を実施し利用状況を把握できた。ニーズの把握はできたので今後は具体的に環境を整えるための検討を行うことが課題となる。また、アンケート項目も他大学のものを参照したが本学独自の項目も設定していきたい。特に自由記載欄の休日開館や開館時間の延長などの要望については実習が始まると学生の必要度も高まる。また授業や演習との関係から学生のニードを確認して学習の場としての図書館を充実させていく必要がある。		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
図書館運営委員会			アンケート結果の公表は第６回会議で、教員には紙面で公表した。学生にはポータルサイトで行うことが決定したが、行っていない。					
		2-2）図書館の電子利用を促すための環境を整える	2-2）教員対象の「文献検索研修」は、時期を逸してしまい実施計画を立てることができなかった。次年度の課題とする。	C		2-2　学生･教員ともに電子利用を活用した「文献検索研修」の１年間の日程を計画し実施することが課題となる。また、操作法習得にとどまらず学習や研究に使える検索法について業者を招いて説明してもらう等の企画が必要である。		
		2-3）電子資料(電子ジャーナル・文献 DB)の見積もりを入手し、導入申請を行う	2-3）３月の教員アンケートの結果では、本学に導入されているデータベース（CiNi,医中誌 Web 版,メディカルオンライン）の使用方法を熟知していると回答したものが多く、使用方法の説明が必要と回答したものは CiNi についての数名であった。	C		2-3　今回は調査対象が少なかったので、本学に導入されているデータベース（CiNi,医中誌 Web 版,メディカルオンライン）の利用状況を正確に把握できるように計画的に継続し、課題を明らかにしたい。		
		3-1）学外の利用者数を記録し､月別集計を行う	3-1）10 月から学外の図書館利用者を月単位で集計した。10 月から３月までの月ごとの利用者は平均６人であり、総数 36 人であった。	C		3-1　2021 年度には電動入館カウンターが設置できる。正確な利用状況の調査集計から図書館利用促進につなげていきたい。		
		3-2）大学図書館への希望調査を崇徳事業団の各組織に実施する	3-2）委員会での課題であることを確認していたが実施には至らなかった。	C		3-2　崇徳事業団の各組織の図書館に対する希望情報を確認していきたい。		
			・図書館企画行事（図書館ツアー・著書・研究紹介） ＊図書館ツアーとして､3 月５日(金)昼休みに第 1 回目の Library Guide を開催した。題目は「情報検索入門 1 図書館の資料について」であり､参加者は１年生４名であった。	C	「図書館ツアー募集案内:パンフレット」	＊図書館ツアーとして Library Guide､本年企画した「著者を招いた読書会」は、多くの学生と教職員が参加できるように１年間の計画をしていきたい。		
			＊著書･研究紹介として､3 月に大学関係者の「著者を招いた読書会」を企画したが、学生が春休みに入っていたため次年度の行事とすることにした。	C				
			・領域別図書選定 領域別資料選定の冊数は 2021.3.17 現在で 343 冊であった。合計金額は 948029 円であった。	B	「領域別図書館資料選定表」	＊領域別図書選定においては､前期･後期の各時期において必要な図書の購入が計画的に行えるように、学生および教職員から協力を得ていきたい。		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
アドバイザーⅠ期生	1.　学生ファーストの立場をアドバイザーは貫く 2.　個々の学生に寄り添い、問題解決を図ることができる 3.　学生の大学生活への満足度を高めることができる	1.　学生の学習力把握のために他の委員会等との情報交換を行う 2.　個別面接、アドグル内の集い、アドグル全体の集いを継続して行う 3.　アドバイザー教員の指導力を高める勉強会を行う 4.　学力低下等の問題ある学生のフォローを早めに取り組む 5.　年度末に目標１の評価を活動結果から評価する	１．国家試験対策委員会からの模擬試験の結果を基に指導が必要な学生に対応をおこなった。20 年度は看字ドリル等は国家試験対策委員がおこなっており、19 年度より指導の機会は減少した ２．ＣＯＶＩＤ－１９で対面の集まりはできなかったので、メールやリモートでの話し合いがもたれたりしたが、中々集いは困難であった ３．勉強会はＣＯＶＩＤ－１９で開催しなかった ４．学力低下の学生の対応は、個別面接などでなされたが学力の回復にはならず、未履修科目の学生への 3 者面談となり、退学にいたる学生もいた ５．十分な活動評価ができなかった。ただし、さまざまな問題があり、その解決に対応はできた。	B		目標の１及び２は、学生の個別課題には十分対応し、問題の解決が図れた。20 年度でアドバイザー教員 2 名が退職となり、学生の受け持ちが 10 名となり、21 年度グループに再編された学生との関係形成が重要な課題となる。学生ファーストの目標は達成できたと考える。	1.　学生ファーストの立場をアドバイザーは貫く 2.　学生のストレスへの対応を図ることができる 3.　学生の大学生活への満足度を高めることができる	1.　国家試験模擬試験の結果を受け、学生の学習力向上のために相談やアドバイスを行う 2.　担当教員が変わった学生が新たな担当教員とのコミュニケーションが図れる 3.　アドバイザー教員の指導力を高める勉強会を行う 4.　学力低下等の問題ある学生のフォローを早めに取り組む
アドバイザーⅡ期生	１.学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。 2.　学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。 3.学生の大学生活への満足度を高めることができる。	１．学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。	1. 新型コロナ感染拡大により 4/7～19 まで休講。授業開始日の変更に伴う自宅待機学生の不安に対し、担当学生にメールし様子を伺って不安等への対応を行った。5/11～29 まで Web 授業となったため 5/7,8 と説明会を実施。この時に担当学生と会い、様子を確認し不安や疑問に対応した。 Web 授業開始後、ネット環境が整っていない学生はポータルサイト上の情報を得る方法が分からず疲弊している状況が見られた。半面ストレスもあるが授業に面白さを感じている学生もいた。 教務･学生課からマル秘扱いの｢学生記録票」ファイルが配布され、厳重な取り扱いで保管した。｢面接用パーソナルシート」を作成し「学生記録票」の後に閉じて使用した。6 月 22 日より対面授業となり面接を計画的に実施した。	A	アドバイザー会議記録 「学生記録票」 「面接用パーソナルシート」	1. 新型コロナ感染拡大に伴う休講、授業開始日の変更、Web 授業の開始、対面授業の開始と授業開始の変更が相次いだ。担当学生にメールで連絡を取り、授業開始の変更による不安や戸惑いに対して話を聞き、説明会で登校した時に直接学生の様子を確認したことで学生の状況が把握でき適切に対応することができた。	1　学生一人ひとりの学業や進路､課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談､助言を行う。 2　学生を尊重し学生の利益を優先して問題解決を図る。 3　学生の大学生活への満足度を高めることができる。	1 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 2 科目担当者、教務委員会、学生委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 3 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。 4 アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
アドバイザーⅡ期生		2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。	2. 基礎看護学科目での学生の受講態度、学習状況を伝え情報共有を図った。パソコンの貸与時期、大学からの経済的支援について案内をしてもらうよう教務・学生課に確認した。	A	アドバイザー会議記録	2. 定例会議の場で基礎看護学科目担当者から学生の授業での様子、学習状況について情報提供がされ、各担当教員との情報交換が行えた。教務･学生課との情報交換、情報の確認により教務委員会・学生委員会との連携が図れた。		
		3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	3.　呼び出しに対して反応しない学生、メール連絡に返信しない学生がおり、各アドバイザーが工夫して連絡が取れるようになった。学習方法や試験勉強など先輩から教えてほしいが交流がないという悩みが寄せられた。 面接では、スタディスキルズの授業で用いた｢私の好きなことマップ｣を活用し、学生の心配や不安に答えた。	A	「私の好きなことマップ」	3. 定例会議で学生生活に課題のある学生について検討することができ、タイムリーで適切な対応ができた。教員からの連絡にすぐに反応しない学生がいるので、次年度のオリエンテーションで教員からの連絡は基本的に大学メールで行うので必ず返信し、確実に連絡を取るよう注意喚起をする。		
		４．アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。	４．定例会議の情報交換で各担当学生の生活全般について把握し、学生を支援するためのアドバイザーの役割について共通認識がもてるよう、活発に意見交換を行い相互の研鑽を図った。	B	アドバイザー会議記録	４．定例会議において常にアドバイザーの役割、委員会の目標を念頭に置き、課題のある学生について検討したことが指導力向上のための研鑽につながった。今後もアドバイザーとしての役割を果たすためさらに研鑽を重ねていく。		
アドバイザーⅢ期生							学生一人ひとりの学業や進路､課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	１．学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。 2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。 3.学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。 ４．アドバイザー教員の指導力向上のため相互に研鑽する。
ボランティア活動委員会	1.　ボランティア連合会との協働体制の確立 2.　大学独自の活動の基礎づくり 3.　学生のボランティアに関する理解の促進	1.　ボランティア活動委員会の規程の作成	1. 委員会で審議し作成した。6 月の教授会で承認された。	A	教授会議事録	1. 達成できた。	（地域連携･貢献委員会と合併）	
		2.　ボランティア連合会との協働体制と大学独自の取り組みについてアウトラインの作成	2. ボラ連の担当者と話し合い、ボラ連との連携・協力体制、手続き等の確認をした。ボラ連と地域からの依	A	委員会議事録	2. 達成できた。コロナ禍でもあり、軌道にのるまで修正もあるものと考えられ、柔軟に対応していく必要が		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			**年度末記載**				**年度当初記載**	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
ボランティア活動委員会			頼があった場合や、学生ボランティアを活用した教員独自の活動の情報を得た場合の、学生への周知や手続きの流れ、委員会と教務・学生課独自の役割等についてアウトラインを作成した。また、災害ボランティアの流れについても表記した。			ある。		
		3. ボランティア連合会が担当するボランティア活動との協働	3. ボラ連担当のボランティア活動との協働：新型コロナ禍の中で、ボラ連自体の活動が休止状態であるため、実践は行えない状態が継続している。 実践に向けた、打ち合わせ会議を実施し、互いの理解と実際の手続き等を明確にした。5 についても協力をいただいた。	A	委員会議事録	3. ボラ連との協働関係づくりはできたものの、コロナ禍であり活動自体が休止状態であった。今後は、その環境下であってもできることについて、話し合いを継続していく必要がある。		
		4. 大学のボランティア活動について地域社会への広報	4. 地域社会への広報：大学のボランティア活動、および依頼があるときの手続き等について、地域社会に広報する目的でＨＰに掲載した。また、長岡市ボランティアセンターに、本学学生のボランティア活動についての認知を図った。	A	ＨＰ	4. 地域社会への広報としてＨＰに掲載した。また、長岡でボランティア活動を積極的に推進している長岡ボランティアセンターとの連携構築を推進していく必要がある。		
		5. 学生を対象としたボランティア連合会講師による学習会の実施	5. 学生を対象としたボラ連講師による学習会:1,2 各学年を対象に実施した。まず、当委員会の教員が「ボランティアとは」について講義し、その後、ボラ連の担当者が具体的な「医療の福祉の里」法人で実践しているボランティア活動や学生に参加して欲しいボランティア活動等について説明した。学生ポータルサイト、後期オリエンテーション、チラシを掲示、という 3 つのルートから参加を募ったが、当日は 1 年生（12/2）8 名、2 年生(10/21)6 名であった。アドバイザー会議等を活用して、さらに広報を徹底する必要があった。	C	議事録	5. 3 つのルートから周知したものの、学習会への学生の参加数が少なかった。学生の空き時間が少なく、その中で確保した時間帯であったが、1 年生は次の時間で課題があるなどの影響もあったものと考える。他にアドバイザー会議などを活用するなど、さらなる周知徹底を図る必要があった。今後、実施の必要性を含めて、検討する必要がある。		
		6. 地域におけるボランティア活動に関する情報収集	6. 地域におけるボランティア活動に関する情報収集：学生ができる地域での活動を知る目的で、委員が情報を集め話し合った。その結果､「子どもへの対応」「一般住民対象」「介	C	議事録	6. 地域におけるボランティア活動に関する情報収集については、コロナ禍であることから感染予防を意識していたのかもしれない。早い時期から、コロナ禍でもできるボランテ		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4.　新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1.　学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2.　看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3.　研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
ボランティア活動委員会			護施設･高齢者施設」「長岡市の活動」に大きく分かれた。長岡市ボランティアセンターが定期的に発行するボランティア通信を取り寄せ掲示した。			ィアについて積極的に情報収集し、学生に提示していく必要があったのかもしれないということからＣの評価とした。今後は、ボラ連はもとより、長岡市や長岡ボランティアセンターと連携しながら情報を得ていく必要がある。		
		7.　本学として実施できるボランティア内容の模索	7. 本学として実施できる活動の模索：コロナ禍でボラ連自体の活動がなかった。地域からの依頼は、長岡市から有償ボランティアの依頼があり、掲示板とポータルサイトを使って周知したが､希望者はいなかった。教員の地域と連携した活動に学生ボランティアが参加できる機会が１件あった。また、長岡市ボランティアセンターと連絡をとり、コロナ禍の影響でボランティア通信に掲載されている内容すべてが実施できる状況ではないとのことだが、今後、定期的な冊子送付を依頼し、近隣のボランティア募集について学生への情報提供を促進できるようにした。　コロナ禍であっても学生が活動できるボランティアについて、検討していく必要がある。	C	ＨＰ、市からの依頼文、長岡市ボランティア通信	7. 新型コロナ禍であったため、ボラ連や地域から依頼がなかったが、その環境下であっても学生が活動できるための独自の検討が十分なされなかったため、今後はその取り組みが必要である。		
災害看護委員会	1.　災害看護委員会規定の作成 2.　自然災害に強い組織作り	１．災害看護委員会規程の策定	１．長岡崇徳大学教授会規程第７条第２項の規程に基づき、災害看護委員会で審議し、作成した。５月の教授会で承認された。	A	議事録参照 災害看護委員会規程参照	１．今年度より立ち上がった委員会であり、委員会の独自性も含まれている委員会規程であることから評価Ａとした。	（地域連携･貢献委員会と合併）	
		２．防災(地震)マニュアルの作成	２．防災（地震）マニュアル作成に向け、日本看護系大学協議会、学校防災マニュアル（地震・津波作成の手引き　出典：文部科学省）他、資料取集をして検討した。第１段階として、学生・教職員を対象に９月30日、新潟県中越地方に震度６強の直下型地震発生が発生したと想定し、学生の事故や災害時の連絡方法・長岡崇徳大学教職員緊急連絡網に基づいて安否確認訓練を実施した。参加者全員にアンケートを依頼した。アンケート結果を委員会で分類・分析	A	委員会議事録･教授会議事録および訓練に向けた説明配布資料参照	２．中越地域に震度６強の直下型地震発生を想定し、学生委員会から学生に、また、総務から教職員に配布されている緊急連絡網に基づいて、安否確認訓練を行った。参加者のアンケート（ほぼ100%回収）を整理・分類した結果、学生委員会、大学事務局に課題を提案した。学生委員会はこの提案をもとに連絡網を修正、２月の教授会で報告している。以上のことから評価Ａとした。教職員のアンケート結果からは、学生数の増加により安否確認が円滑に行えるよ		

看護学部・看護学科の目標

令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
災害看護委員会			して学生委員会、総務課に提案し、マニュアル作成の基盤作りをした。			う安否確認システムの導入が強く希望され、担当者および教授会で提案し働きかけたが、本年度は予算面で承認されなかったが、引き続き導入に向けて働きかけることが課題となる。		
		３．関連施設との災害時の連携体制づくり	３．関連施設として大学に近い医療法人崇徳会田宮病院・社会福祉法人長岡老人福祉協会桃季園・特別養護老人ホームこぶし園､各施設に対し、災害発生時の連携体制の第一歩として、訪問し協議することを計画したが、各施設では新型コロナ感染問題が急務となったため中止とした。 そこで本学と棟続きである「のっぺキッチン」と協定を結ぶことが委員会で提案され、本学事務局に働きかけたが、大学としての防災指針が示されないと検討することが困難であるとの回答から、大学の防災指針が示されてから検討していくこととなった。	D	議事録参照	３．新型コロナ（COVID-19）感染拡大に伴い、関連施設との災害時の連携体制つくりは、法人・大学各担当者レベルで情報交換し、災害時における連携体制構築への導入にはなったが、それ以上の発展はなかったことからＤ評価とした。今後は連携に関する具体的な話し合いを持つことが課題となる。		
		４．備蓄物品の検討	４．雪害により帰宅困難となった学生 50 名（一人暮らしの学生を対象）が１泊大学に待機すると想定し、食料・保健衛生・暖房・寝具等々必要物品のリスト（案）を作成した。	A	議事録参照 長岡崇徳大学　大学備蓄品購入リスト（案）	４．雪害・冬の停電、在校生 98 名（１・２年生）のうち約 50 名が１日帰宅困難となったと想定し、大学備蓄品購入リスト（案）を作成した。リスト上から必要物品の中で実習物品としてある物は借用する。教職員に自宅で不要になった物の提供を求めた。大学として備えるべき優先順位を検討した結果、食料品のみとなった。大学内の物品を確認し必要物品を挙げ、次年度予算に提示したことからＡと評価した。今後学生数の増加に伴い備蓄品の購入が課題である。また、今回は雪害と冬の停電のみの備蓄を検討したが他の災害に関しても検討することが重要である。		
		５．防災訓練への参加	５．災害看護委員として災害多発化･	C	議事録参照	５．　大学主催の訓練であり、委員会		

看護学部・看護学科の目標								
令和２年度							令和３年度	
1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。 4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。（令和３年４月申請済み）							1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し生活環境を整えていく。 2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。 3. 研究活動及び地域連携･貢献活動に取り組み､その実績を可視化する。	
年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
			複合型災害発生、自分自身の身の安全、学生と教職員間の安否確認などについての視点をもって参加した。その結果､｢学外講師の対応､欠席者･欠勤者の把握、学内放送システム、避難経路・避難場所の確認、出火元の伝達」が得られ、防災訓練の主体者である大学に提言した。			としては委員会の視点をもって参加し、その結果を委員会でまとめ大学に提言したことからＣ評価とした。なお、その後の進展が得られていないことから、委員会として引き続き確認・協力をすることが課題でもある。		